

大分の畜産

2018



百年の恵み
おおいた和牛



平成30年

大分県

目 次

| | |
|---|----|
| I 農業及び畜産の概要 | |
| 1. 農業の概要 | 1 |
| 2. 畜産の概要 | 3 |
| II 家畜別の動き | |
| 1. 肉用牛 | 4 |
| 2. 乳用牛 | 9 |
| 3. 豚 | 12 |
| 4. 採卵鶏 | 15 |
| 5. ブロイラー | 17 |
| 6. 地鶏 | 19 |
| 7. 生産費と所得の推移 | 21 |
| III 飼料 | 23 |
| IV 家畜衛生・畜産環境 | 26 |
| 資料1 畜産関係団体等一覧 | 28 |
| 資料2 県畜産関係組織図 | 29 |
| 資料3 平成30年農林水産部 畜産振興課・畜産技術室の 主な出来事 | 30 |

I 農業及び畜産の概要

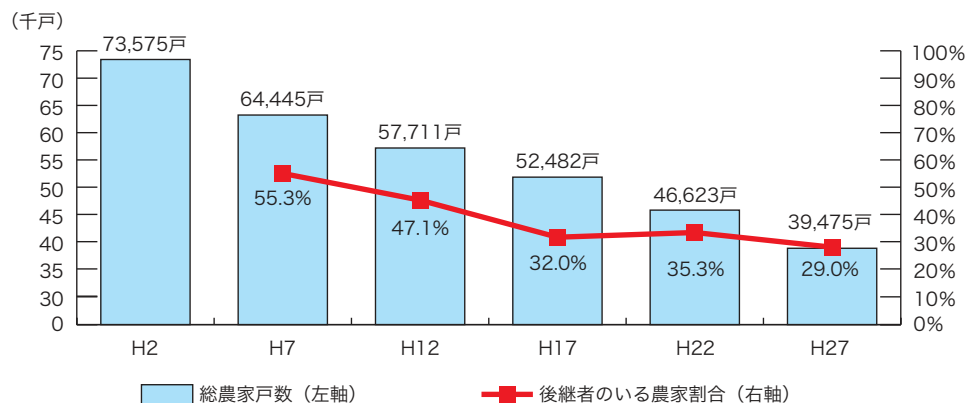
1. 農業の概要

(1) 本県農業の位置づけ

| 項目 | 単位 | 区分 | | | | | 資料 |
|--------------|-----|--------|---------|-----------|----------|----------|--------------------------|
| | | 大分県 | 九州 | 全国 | 大分/九州(%) | 大分/全国(%) | |
| 総農家戸数 | 戸 | 39,475 | 308,799 | 2,155,082 | 12.8 | 1.8 | 農林水産省「農林業センサス(平成27年)」 |
| 販売農家戸数 | 戸 | 24,300 | 199,273 | 1,329,591 | 12.2 | 1.8 | |
| (構成比) | (%) | 61.6 | 64.5 | 61.7 | 95.4 | 99.8 | |
| 農業就業人口 | 人 | 35,208 | 327,624 | 2,096,662 | 10.7 | 1.7 | 農林水産省「生産農業所得統計(平成29年)」 |
| 農業産出額 | 億円 | 1,273 | 18,356 | 98,787 | 6.9 | 1.3 | |
| 生産農業所得 | 億円 | 524 | 7,055 | 38,799 | 7.4 | 1.4 | |
| 生産農業所得÷農業産出額 | (%) | 41.2 | 38.4 | 39.3 | 107.1 | 104.8 | |
| 農業産出額÷総農家戸数 | 千円 | 3,225 | 5,944 | 4,584 | | | |
| 農業産出額÷販売農家戸数 | 千円 | 5,239 | 9,211 | 7,430 | | | |
| 耕地面積 | ha | 55,400 | 529,900 | 4,420,000 | 10.5 | 1.3 | 農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成30年)」 |
| 田面積 | ha | 39,500 | 309,600 | 2,405,000 | 12.8 | 1.6 | |
| (構成比) | (%) | 71.3 | 58.4 | 54.4 | 122.1 | 131.1 | |
| 畑面積 | ha | 15,900 | 220,300 | 2,014,000 | 7.2 | 0.8 | |
| (構成比) | (%) | 28.7 | 41.6 | 45.6 | 69.0 | 62.9 | |
| うち牧草地 | ha | 2,720 | 14,400 | 598,600 | 18.9 | 0.5 | |
| (構成比) | (%) | 4.9 | 2.7 | 13.5 | 181.5 | 36.3 | |

(注) 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家。
 農業就業人口：販売農家で、農家に常住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員のうち、調査期日前1年間に、「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」。
 生産農業所得：農業産出額から生産のために投入された物的経費を控除して推計したものの。

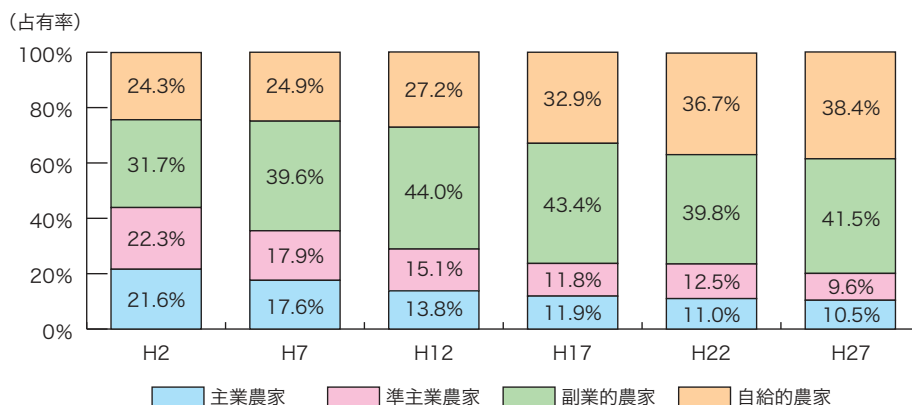
(2) 農家戸数の推移（大分県）



農家戸数はH27年が39,475戸で、5年前に比べ15.3%減少した。後継者のいる農家割合はH27年が29.0%で、5年前の35.3%に比べ大幅に減少している。

資料：農林水産省「農林業センサス」

(3) 主業副業農家占有率の推移（大分県）

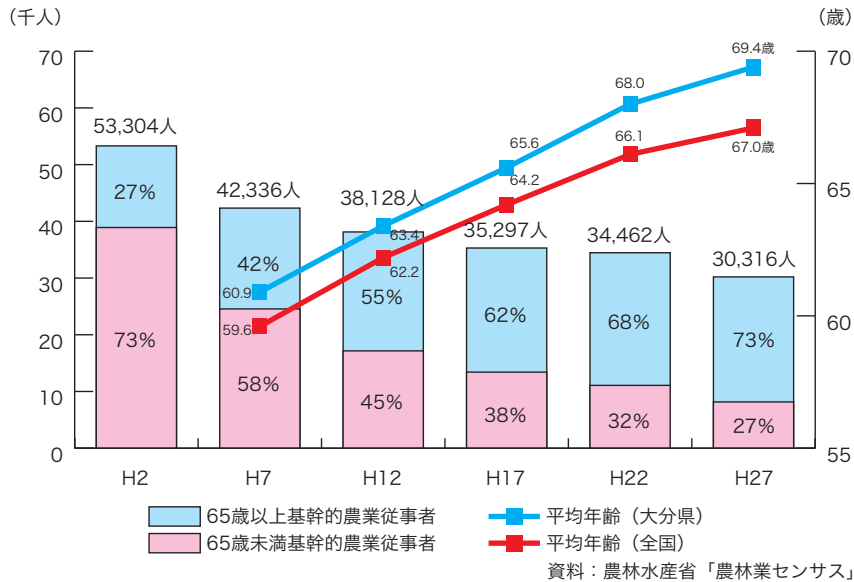


H27年の主業農家の割合は10.5%で、5年前に比べ0.5%減少した。農家戸数は5年前に比べ、15.3% (7,148戸) 減少したのに対し、主業農家戸数は19.8% (1,017戸) 減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

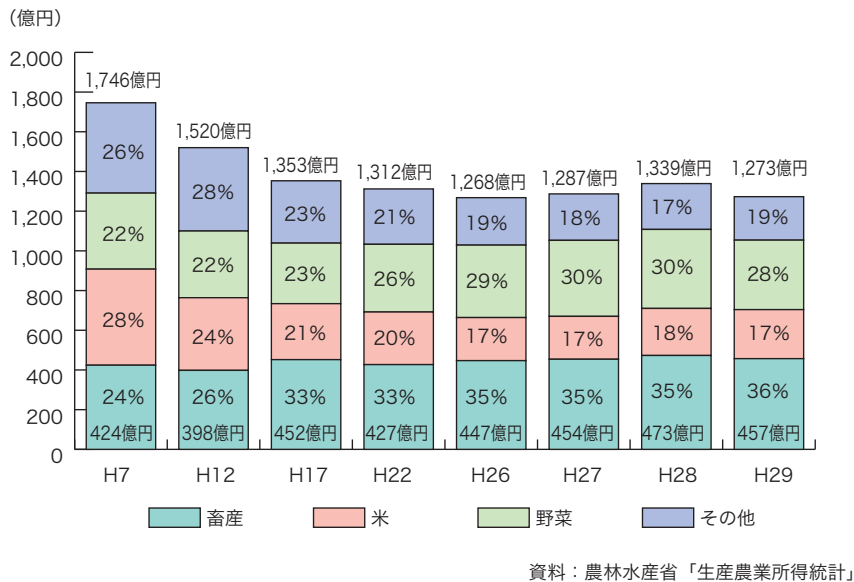
(注) 主業農家：販売農家のうち農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 準主業農家：販売農家のうち農外所得が主で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 副業的農家：販売農家のうち65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。（主業農家・準主業農家以外の農家）
 自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

(4) 農業労働力の推移（大分県）



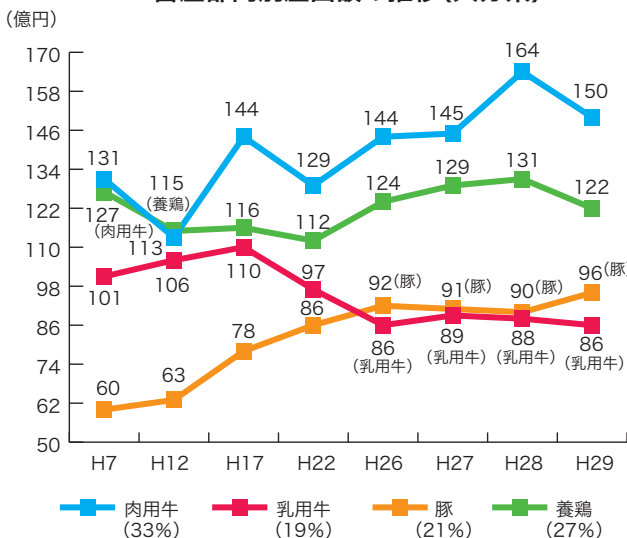
基幹的農業従事者数は、H27年が30,316人で、5年前に比べ88.0%と、減少傾向が続いている。65歳未満従事者割合は、H27年が27.5%と5年前に比べ4.5ポイント(2,710人)減少した。平均年齢は、H27年が69.4歳であり、5年前に比べ1.4歳上昇している。
 (注) 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと。

(5) 農業産出額（大分県）

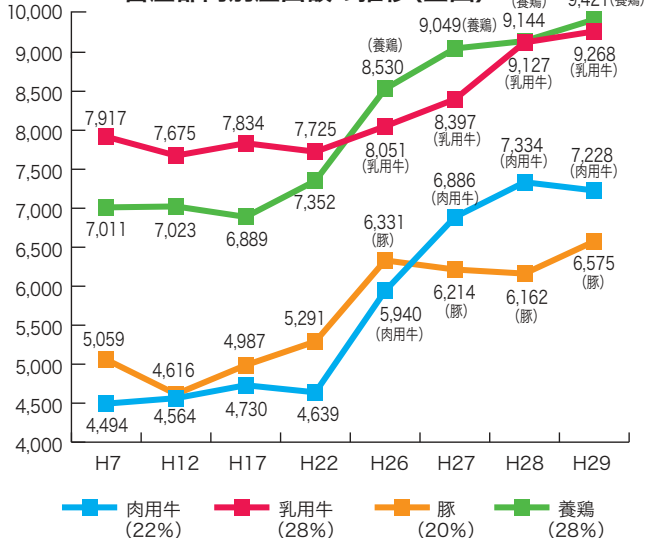


H29年の農業総産出額は1,273億円で前年に比べ66億円(5.0%)減少した。畜産は457億円で総産出額の36%を占め、前年に比べ16億円(3.4%)減少した。畜産の部門別産出額では、肉用牛が150億円(畜産に占める構成比33%)で、前年に比べ8.5%減少し、乳用牛は86億円(同19%)で2.3%減少した。豚は96億円(同21%)で6.7%増加し、養鶏は122億円(同27%)で6.9%減少した。

畜産部門別産出額の推移(大分県)



畜産部門別産出額の推移(全国)



(注) () はH29年の構成比

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2. 畜産の概要

(1) 家畜の飼養戸数・頭羽数（平成30年2月1日）

| | | 大分県 | | 九州 | | | 全国 | | |
|-------|------|---------|---------|-----------|---------|----|-----------|---------|----|
| | | 実数 | 対前年比(%) | 実数 | 対前年比(%) | 順位 | 実数 | 対前年比(%) | 順位 |
| 肉用牛 | 戸数 | 1,210 | 96.8 | 21,200 | 96.4 | 5 | 48,300 | 96.4 | 11 |
| | 頭数 | 48,900 | 103.4 | 901,100 | 101.3 | 6 | 2,514,000 | 100.6 | 15 |
| | 頭/戸 | 40.4 | 106.8 | 42.5 | 105.1 | 5 | 52.0 | 104.3 | 33 |
| 乳用牛 | 戸数 | 126 | 90.6 | 1,520 | 93.8 | 6 | 15,700 | 95.7 | 26 |
| | 頭数 | 12,600 | 102.4 | 106,500 | 99.5 | 4 | 1,328,000 | 100.4 | 16 |
| | 頭/戸 | 100.0 | 113.0 | 70.1 | 106.1 | 1 | 84.6 | 104.9 | 3 |
| 豚 | 戸数 | 47 | 94.0 | 1,420 | 96.6 | 6 | 4,470 | 95.7 | 26 |
| | 頭数 | 137,600 | 102.2 | 2,867,000 | 97.3 | 5 | 9,189,000 | 98.3 | 19 |
| | 頭/戸 | 2,927.7 | 108.7 | 2,019.0 | 100.7 | 1 | 2,055.7 | 102.7 | 8 |
| 採卵鶏 | 戸数 | 23 | 92.0 | 443 | 92.1 | 7 | 2,200 | 90.2 | 33 |
| | 千羽 | 1,286 | 100.1 | 23,696 | 98.2 | 6 | 181,950 | 101.7 | 30 |
| | 千羽/戸 | 55.9 | 108.8 | 53.5 | 106.7 | 3 | 82.7 | 112.8 | 25 |
| ブロイラー | 戸数 | 52 | 98.1 | 1,110 | 98.2 | 5 | 2,260 | 97.8 | 10 |
| | 千羽 | 2,502 | 109.3 | 68,750 | 102.0 | 6 | 138,776 | 102.9 | 12 |
| | 千羽/戸 | 48.1 | 111.4 | 61.9 | 103.8 | 6 | 61.4 | 105.1 | 20 |

（資料：農林水産省「畜産統計」）

①肉用牛

戸数は依然として減少しているものの、頭数は8年ぶりに増加した。1戸あたりの飼養規模は増加を続け、全国33位(H29年36位)とH25年以降順位を落としていたが、今年は上昇した。

②乳用牛

飼養戸数は前年に比べ減少するも、頭数は増加した。1戸あたりの飼養頭数は前年比で13.0%増加し、九州で1位、全国では3位の規模となっている。

③豚

飼養戸数は前年に比べ減少するも、頭数は増加した。1戸あたりの飼養頭数が増加し、九州1位、全国8位の規模となっている。

④採卵鶏

飼養戸数は前年に比べ減少したが、羽数はほぼ横ばい。1戸あたりの成鶏雌飼養羽数は前年比で4.5千羽（8.8%）増えている。

⑤ブロイラー

飼養戸数は前年に比べ減少したが、羽数は増加した。1戸あたり飼養羽数は前年比で4.9千羽（11.4%）増えている。

(2) 農業経営改善計画の営農類型別認定状況（平成30年3月末時点）

| | | 農業経営改善計画認定数 | | | | | | |
|----|---------|-------------|--------|-------|-------|-------|--------|----|
| | | 単一経営 | 畜産小計 | | | | | |
| | | | 酪農 | 肉用牛 | 養豚 | 養鶏 | その他の畜産 | |
| 全国 | 240,629 | 23,639 | 10,416 | 8,236 | 2,172 | 2,000 | 815 | |
| | 九州 | 47,021 | 6,576 | 1,035 | 4,025 | 662 | 793 | 61 |
| | 大分 | 4,212 | 395 | 93 | 227 | 31 | 42 | 2 |

（注）「単一経営」とは、経営体毎の農産物販売金額1位の部門（作目）の販売金額が、農産物総販売金額の80%以上を占める経営をいう

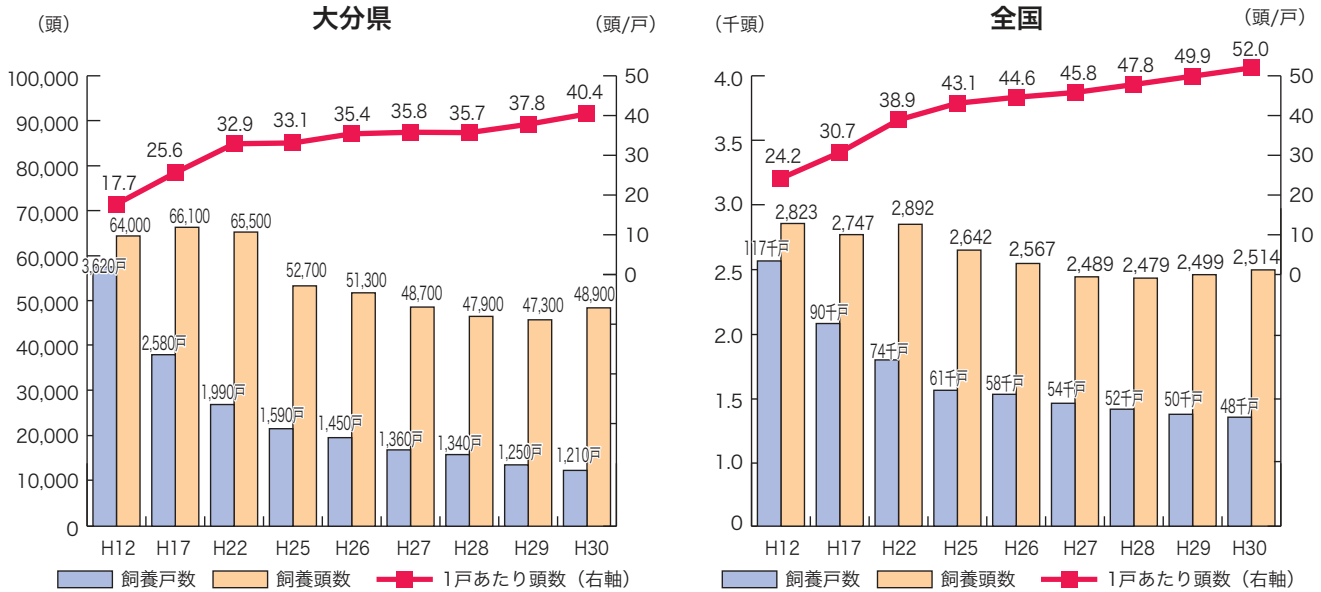
（資料：農林水産省「農業経営改善計画の営農類型別認定状況」）

全国、九州、県内ともに、農業経営改善計画認定数は減少しており、県内は、H29年の4,286からH30年の4,212へと74減少した。しかし、畜産単一経営においては、H30年が395で、H29年の359から36増えた。畜種別では、前年から酪農（+10）、肉用牛（+30）、養鶏（+2）が増加し、養豚（-5）が減少した。

II 家畜別の動き

1. 肉用牛

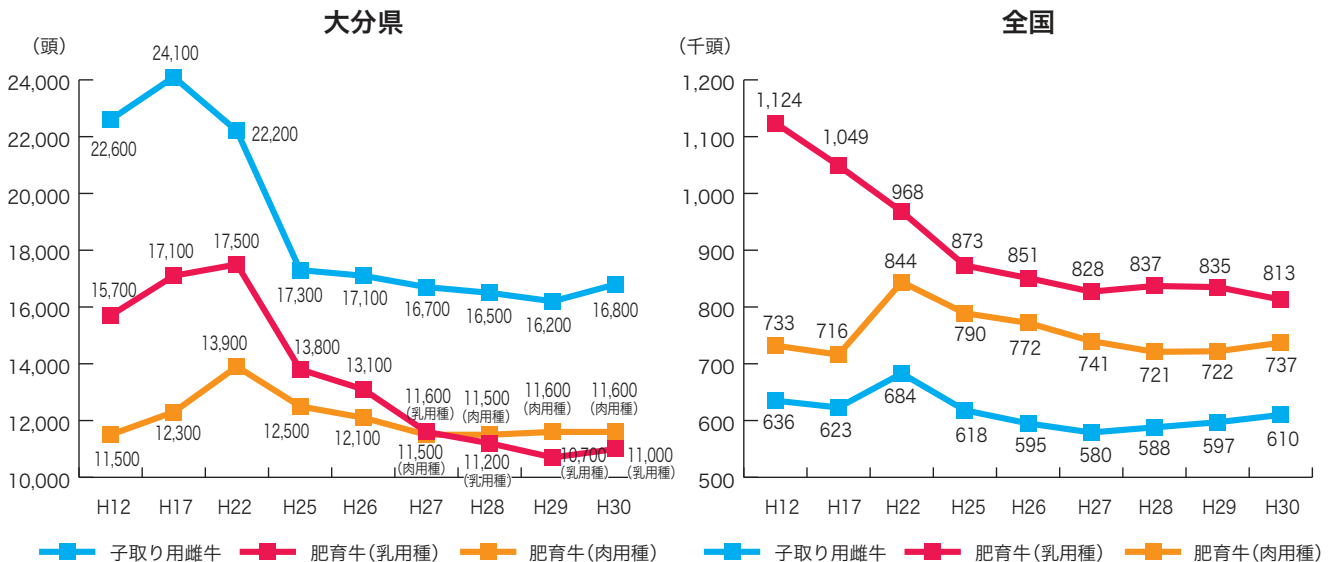
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H30年2月1日現在の飼養戸数は1,210戸で前年に比べ40戸（3.2%）減少した。飼養頭数は48,900頭で、8年ぶりに増加に転じ、前年に比べ1,600頭増加した。1戸あたりの飼養頭数は40.4頭と前年から増加している。

(2) 用途別頭数の推移

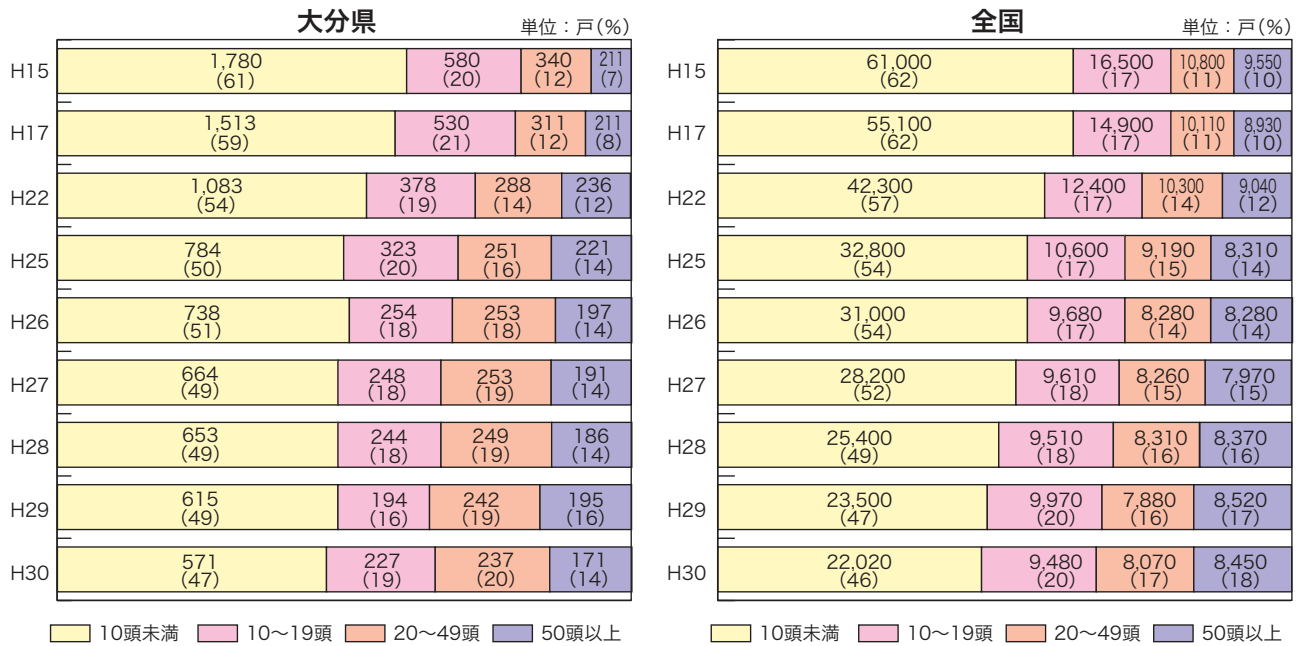


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 子取り用雌牛：子牛の生産を目的として飼養している雌牛（過去に種付けしたことがある牛及び近い将来種付けをすることが確定している牛。）
 (注2) 肥育牛：肉牛販売を目的に飼養している牛。したがって、保育・育成中の牛でも引き続き自家で肥育する予定のものは肥育牛とする。

子取り用雌牛は16,800頭で、前年に比べ600頭（3.7%）増加した。
 肥育牛（肉用種）は、11,600頭と前年に比べ増減なし。
 肥育牛（乳用種）は、11,000頭で前年に比べ300頭（2.8%）増加した。

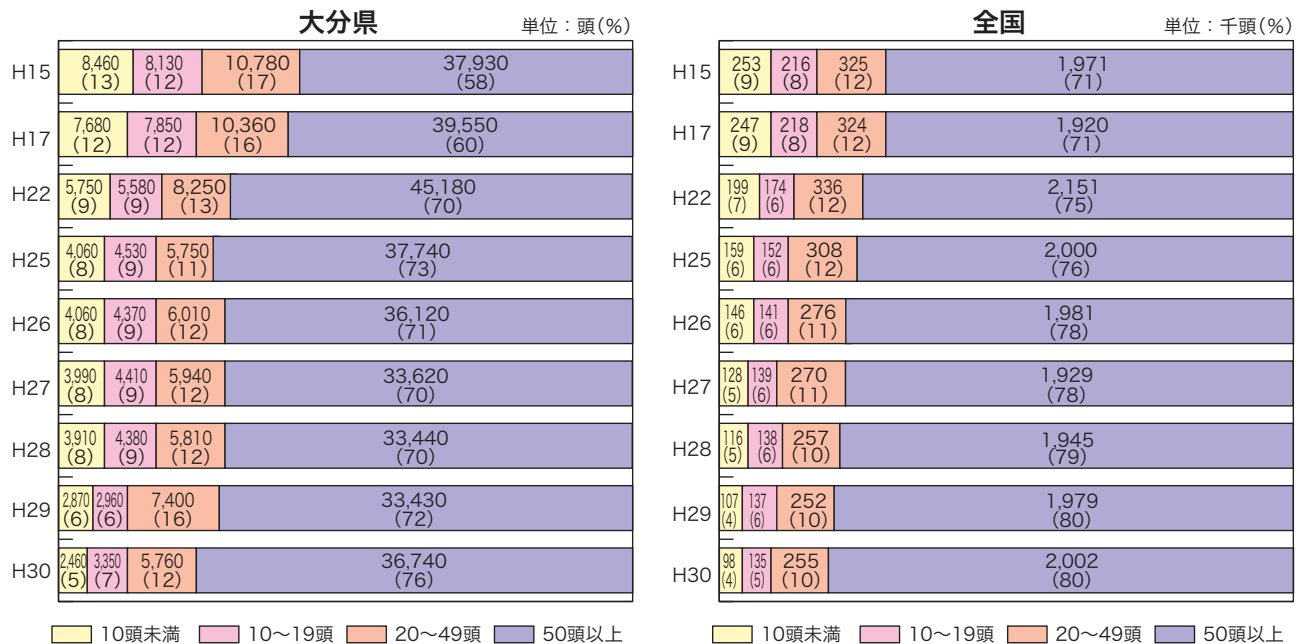
(3) 規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

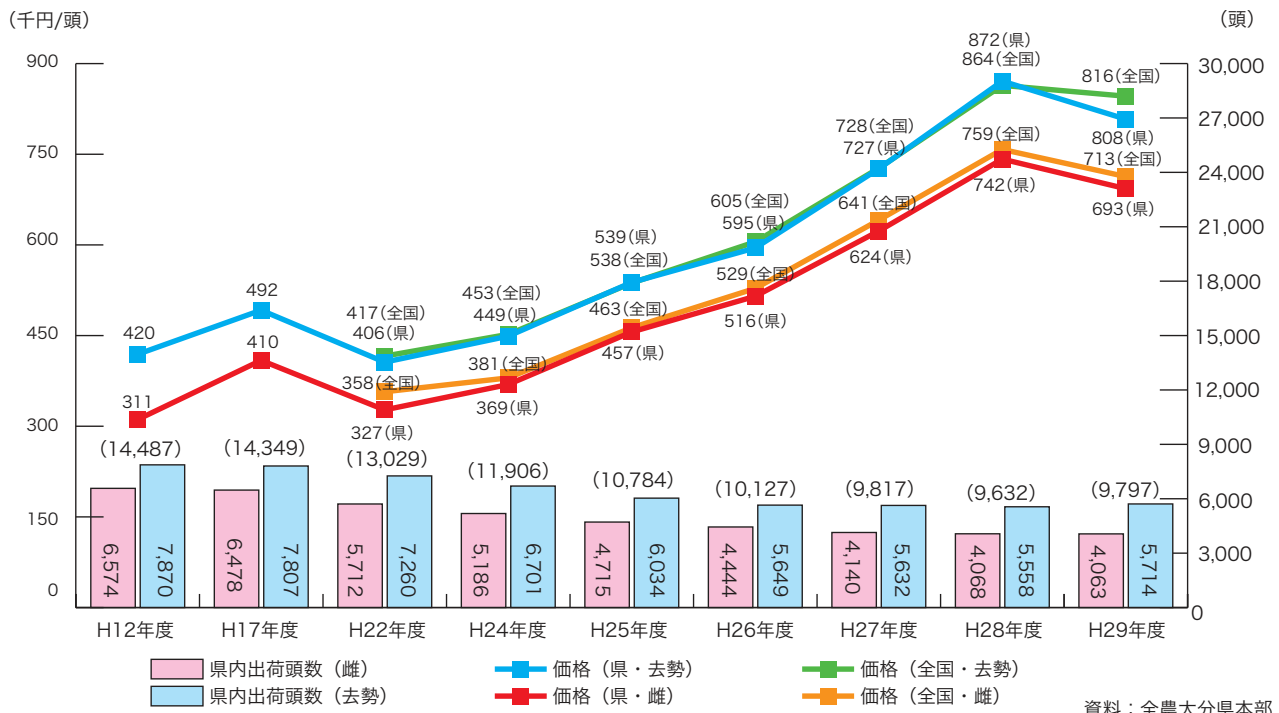
(4) 規模別飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(5) 子牛市場出荷頭数・平均価格の推移



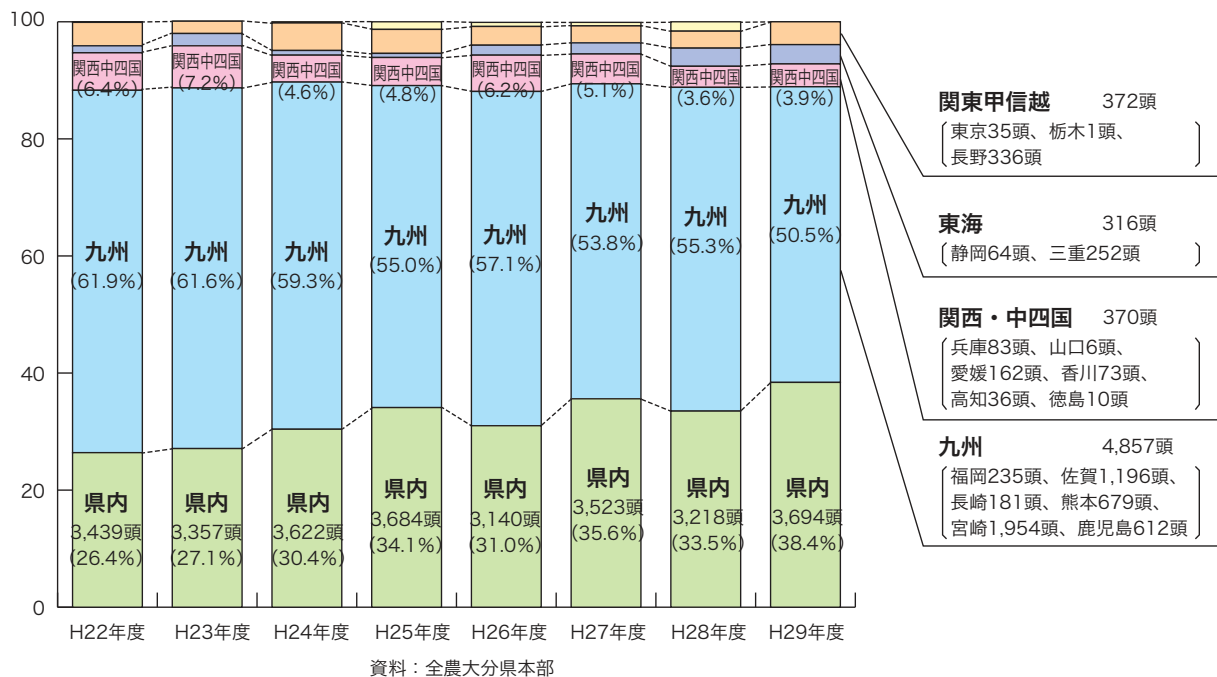
資料：全農大分県本部

(注1) グラフ内「去勢」頭数には「雄」頭数を含まず、() 内出荷合計頭数には「雄」頭数を含まため、合計頭数は一致しない
 (注2) 「大分の畜産 2011」以前は「入場頭数」を、「大分の畜産 2012」以降は「成立頭数」を「出荷頭数」として計上
 (注3) 再上場による頭数等は含まないため、(6) に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない。

H29年度の県内出荷頭数は9,797頭で、前年に比べ165頭(1.7%)増加した。
 平均価格は、去勢807,948円、雌692,963円で、それぞれ64千円、50千円と大幅に減少した。

(6) 肉用子牛(黒毛和種)の流通

都道府県別販売頭数

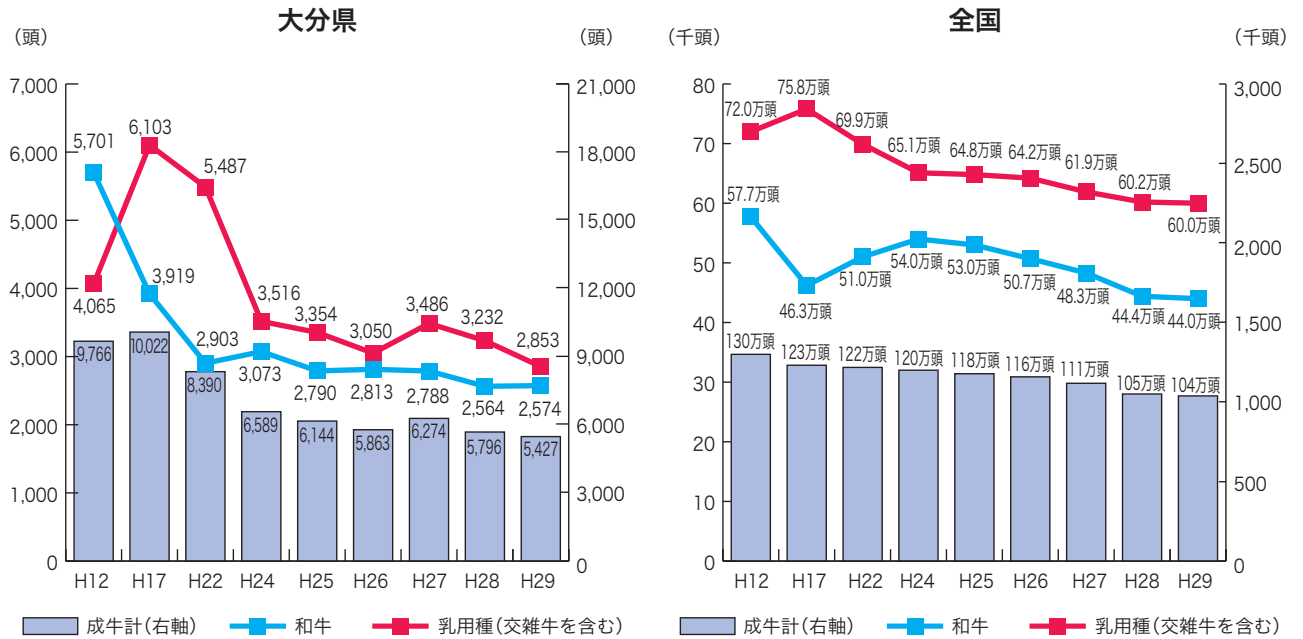


資料：全農大分県本部

(注) 再上場による頭数等を含むため、(5) に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない

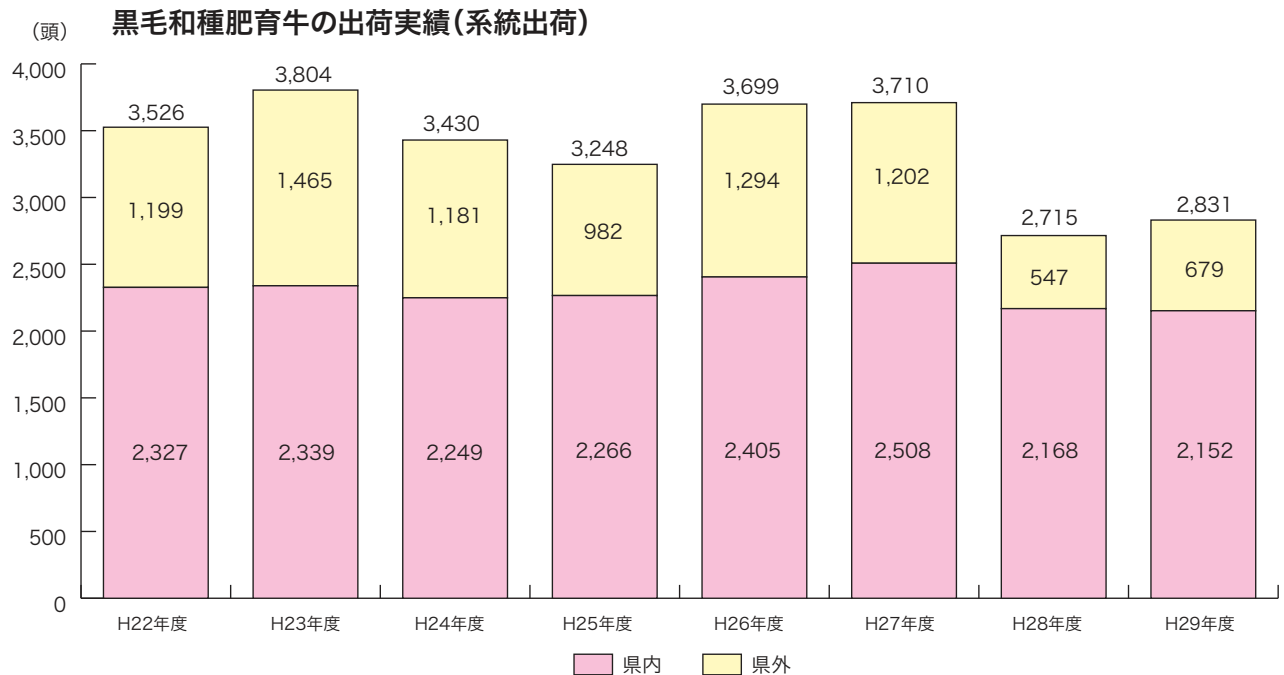
H29年度の県内販売頭数は3,694頭で、総出荷頭数頭の38.4%となり頭数・割合ともに増加した。
 地域別では九州が4,857頭(50.5%)と最も多く、県外販売頭数のうち82.1%を占めている。
 県別では、宮崎県が1,954頭(20.3%)と最も多く、次いで佐賀県1,196頭(12.4%)、熊本県679頭(7.1%)であった。

(7) 肉用牛県内と畜頭数の推移



H29年の成牛と畜頭数は5,427頭で前年比6.4%減少した。
 和牛はH26年以降減少傾向にあったが、H29年に増加に転じ2,574頭(0.4%増)となった。
 乳用種(交雑牛を含む)は2,853頭(うち乳牛1,646頭)で、前年の3,232頭(うち乳牛1,927頭)に比べ、
 379頭(11.7%)減少した。

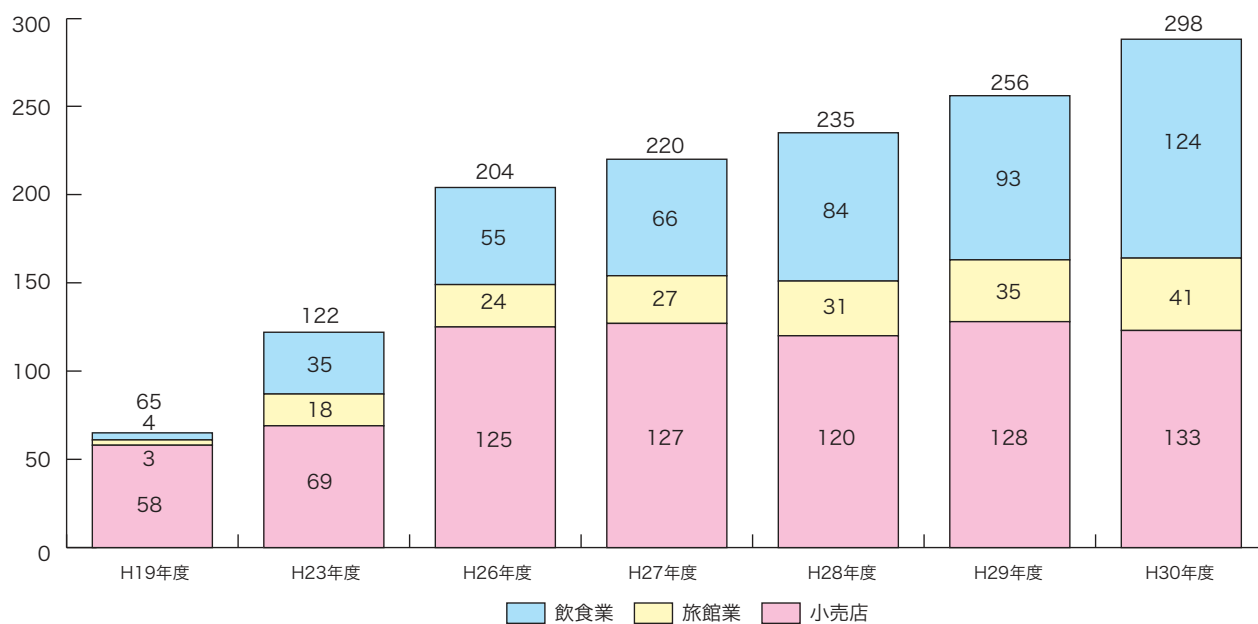
(8) 県産肉用牛(黒毛和種肥育牛)の流通



H29年度の黒毛和種肥育牛の出荷頭数(系統出荷)は2,831頭で、前年比116頭(4.3%)増加している。うち県外出荷頭数は679頭で前年比132頭(24.1%)増加している。

(9) おおいた豊後牛取扱認定店舗数推移

(店舗)



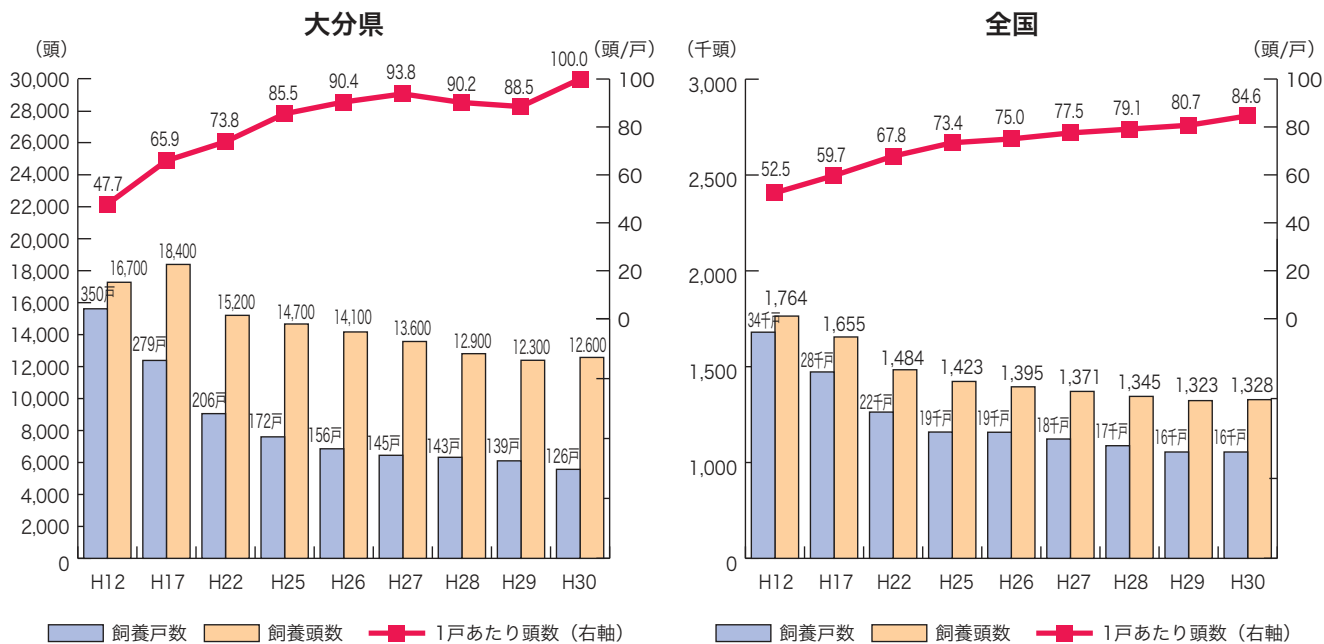
資料：大分県豊後牛流通促進対策協議会

(注) H28年度より常時取扱店のみを認定店として計上。併せて、過去の数字についても常時取扱店のみ修正した。

認定店制度はH19年度に始まり、H30年度には298店舗になった。業種別では小売店が最も多く、44.6%を占めている。H29年度からH30年度にかけて最も伸び率が高いのは飲食業で31店舗(33.3%)増加した。

2. 乳用牛

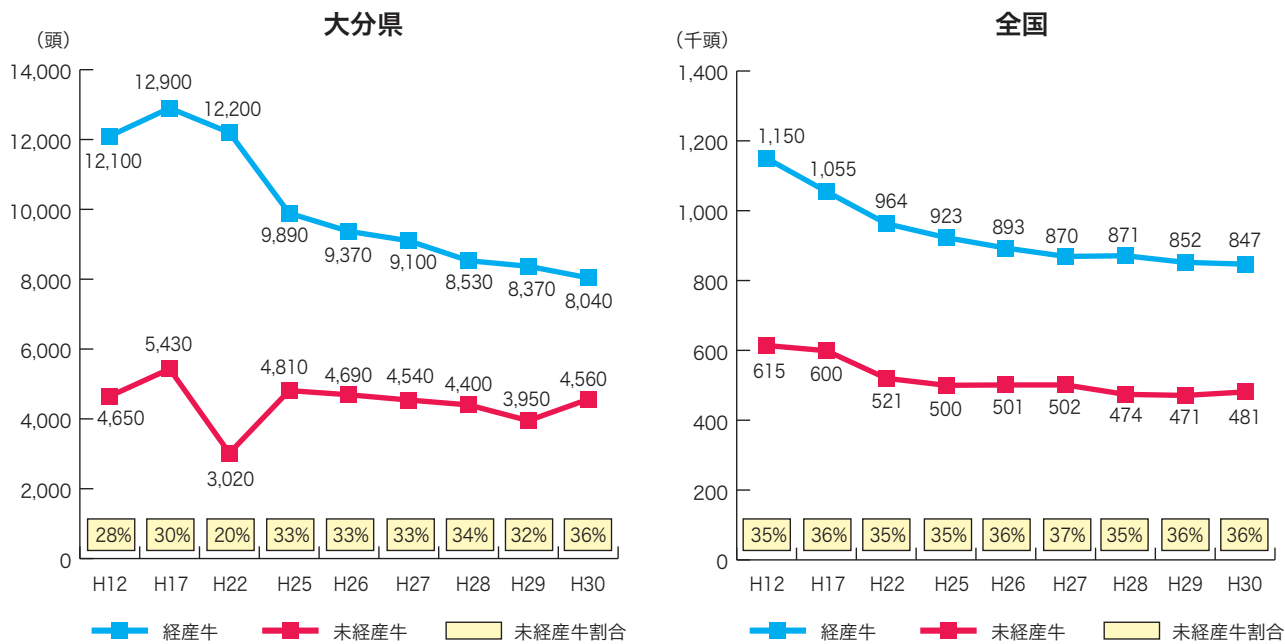
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H30年2月1日現在の飼養戸数は126戸で前年に比べ13戸減少した。
 飼養頭数は12,600頭で、前年に比べ300頭（2.4％）増加した。
 生産調整や高齢化による廃業等の影響によりH17年比では68.5％まで減少している。
 1戸あたり飼養頭数はH27年以降、減少が続いていたが、H30年に増加に転じた。

(2) 用途別頭数の推移

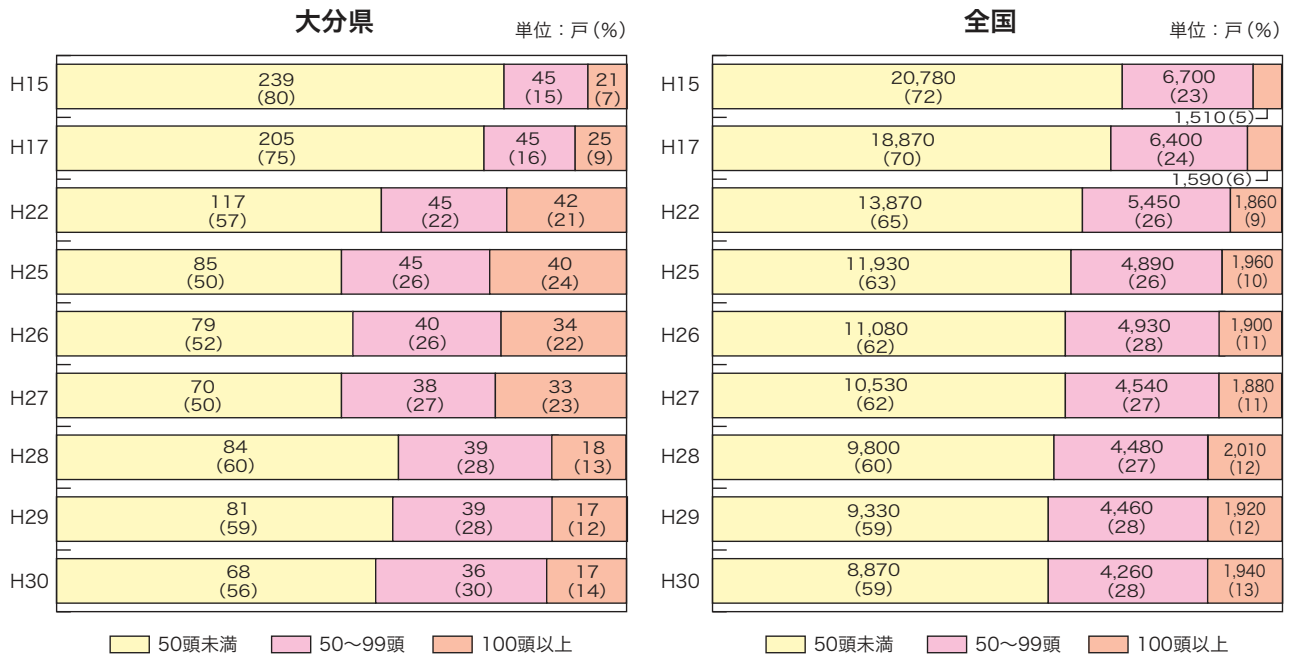


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 未経産牛：出生してから分娩するまでの牛で、生後30ヶ月位までが主体。

大分県は全国に比べ未経産牛割合が低く、H22年には20％まで低下した。
 その後上昇し、H30年には36％となり、全国平均に並んだ。

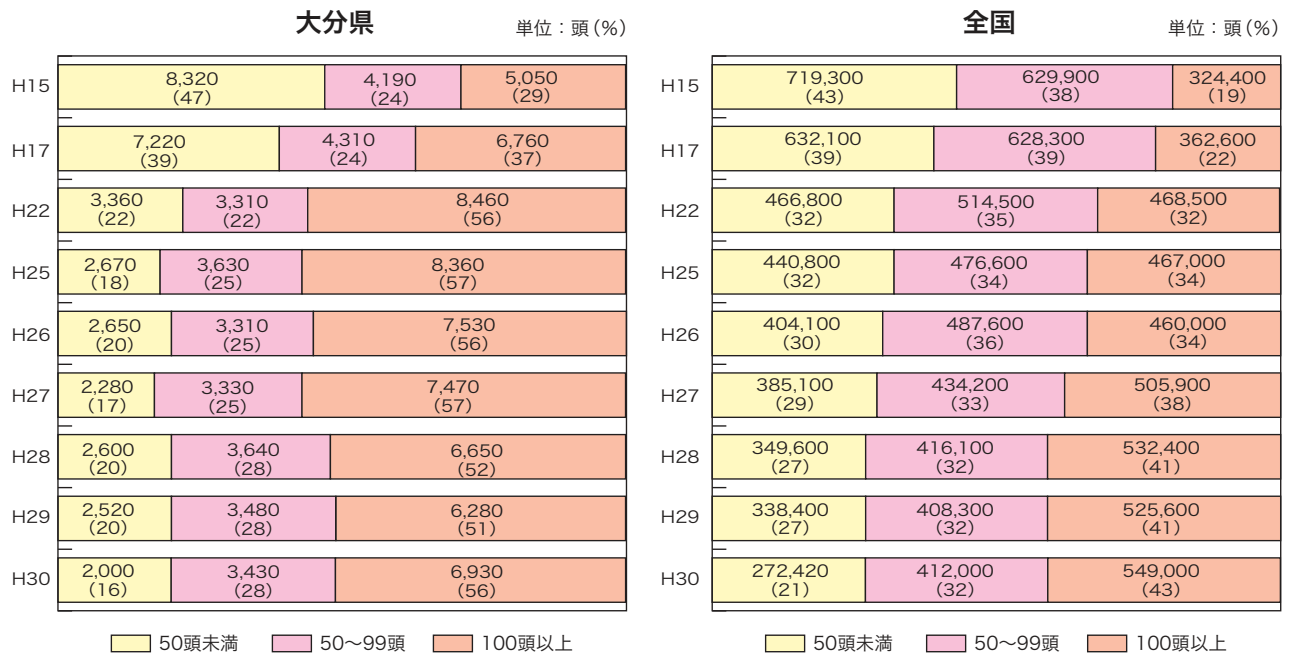
(3) 成畜飼養頭数規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(4) 成畜飼養頭数規模別飼養頭数の推移

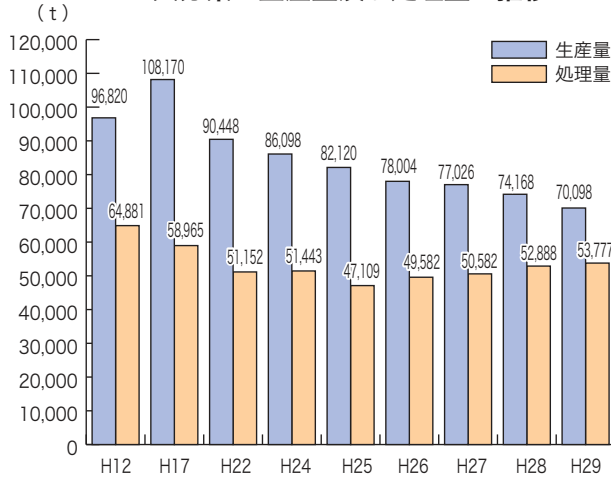


資料：農林水産省「畜産統計」

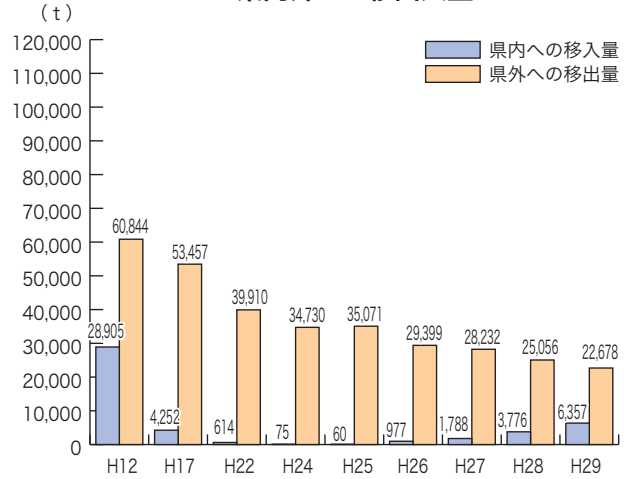
(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(5) 生乳生産量・処理量の推移

大分県の生産量及び処理量の推移

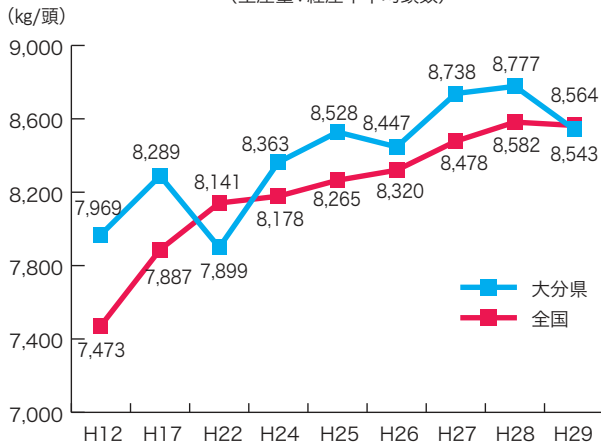


県内外への移出量



経産牛1頭あたり乳量

(生産量÷経産牛平均頭数)



①生産量及び処理量

H18年の生産調整開始後、生産量は減少しており、H29年は前年比4,070t (5.5%)の減少となっている。

②県内外への移出量

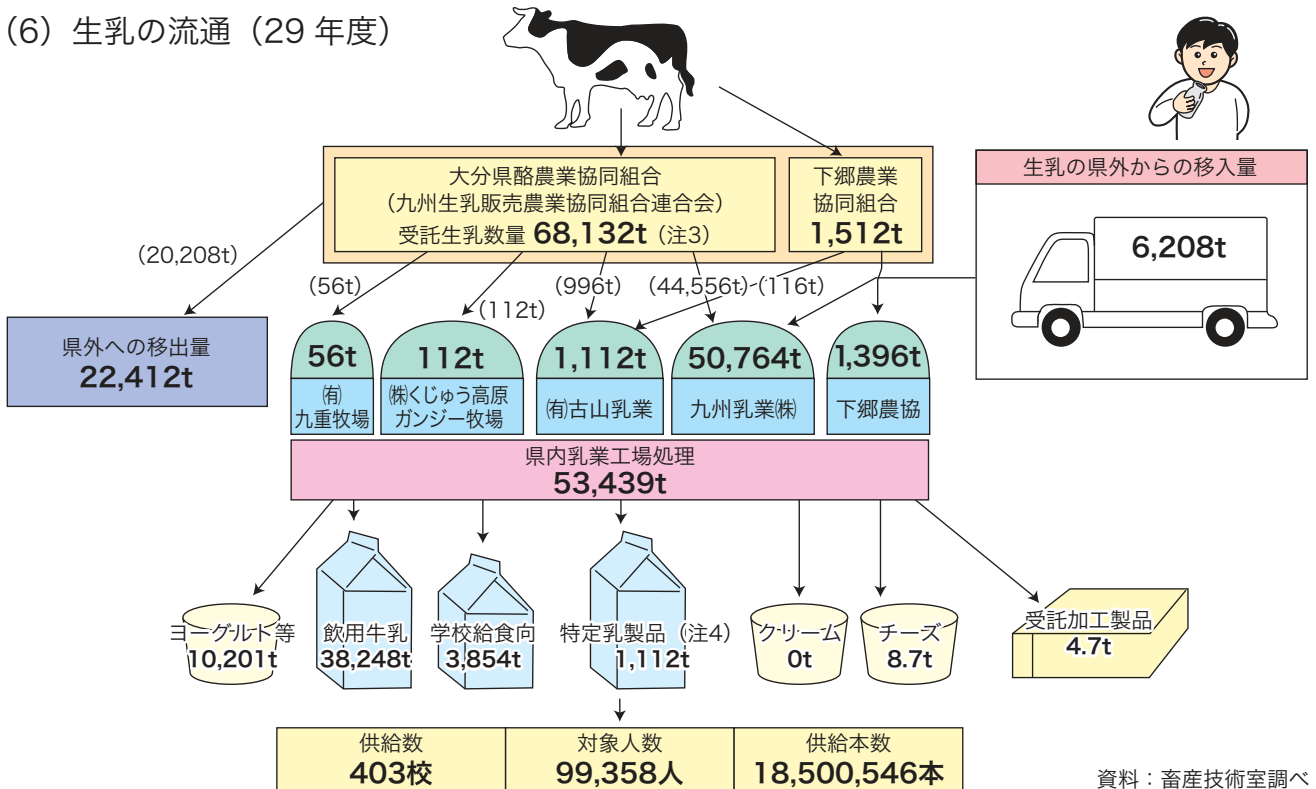
大分県は移入量に比べ移出量の多い移出県であり、減少傾向であった移出量もH23年以降、増加に転じていたが、H26年から再び減少している。

③経産牛1頭あたり乳量

大分県はH24年以降、全国平均を上回っていたが、H29年は全国平均をわずかに下回った。

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」より

(6) 生乳の流通 (29年度)



資料：畜産技術室調べ

(注1) 生乳生産量：初乳を除く生乳(搾乳したままの乳用牛の乳)の総量であり、乳製品工場、牛乳処理場に出荷したもののほか、生産者の自家飲用、子牛ほ乳用等を含めたもの。

(注2) 生乳処理量：生乳を県内で乳製品向け、飲用牛乳向け、その他向け(自家飲料、子牛のほ乳用)に処理したものの量。

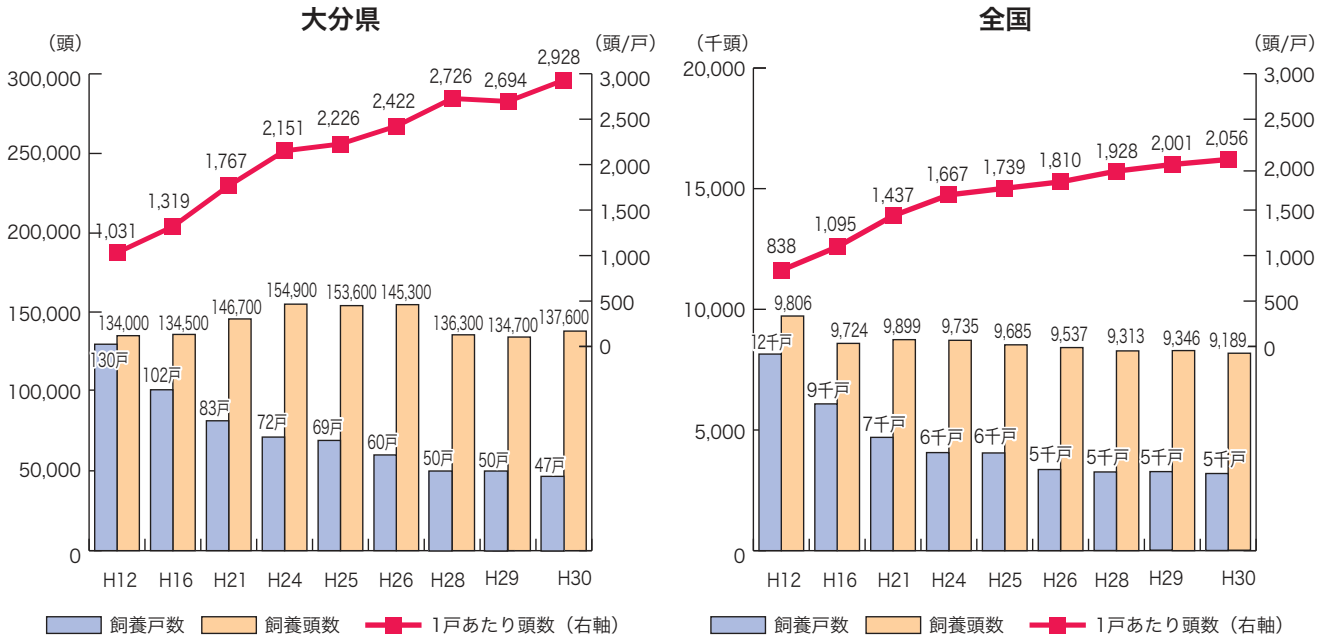
(注3) 受託生乳数量：酪農家が大分県酪に委託して、九州生乳販売農業協同組合連合会に出荷した量。

(注4) 特定乳製品：全粉乳、脱脂粉乳、加糖粉乳、全脂加糖練乳、脱脂加糖練乳、全脂無糖練乳、バター及び子牛用の脱脂乳をいう。

(注5) 当該データはH29年度数値であり、農林水産省「牛乳乳製品統計」はH29年度数値であるため、両者は必ずしも一致しない。

3. 豚

(1) 飼養戸数・頭数の推移

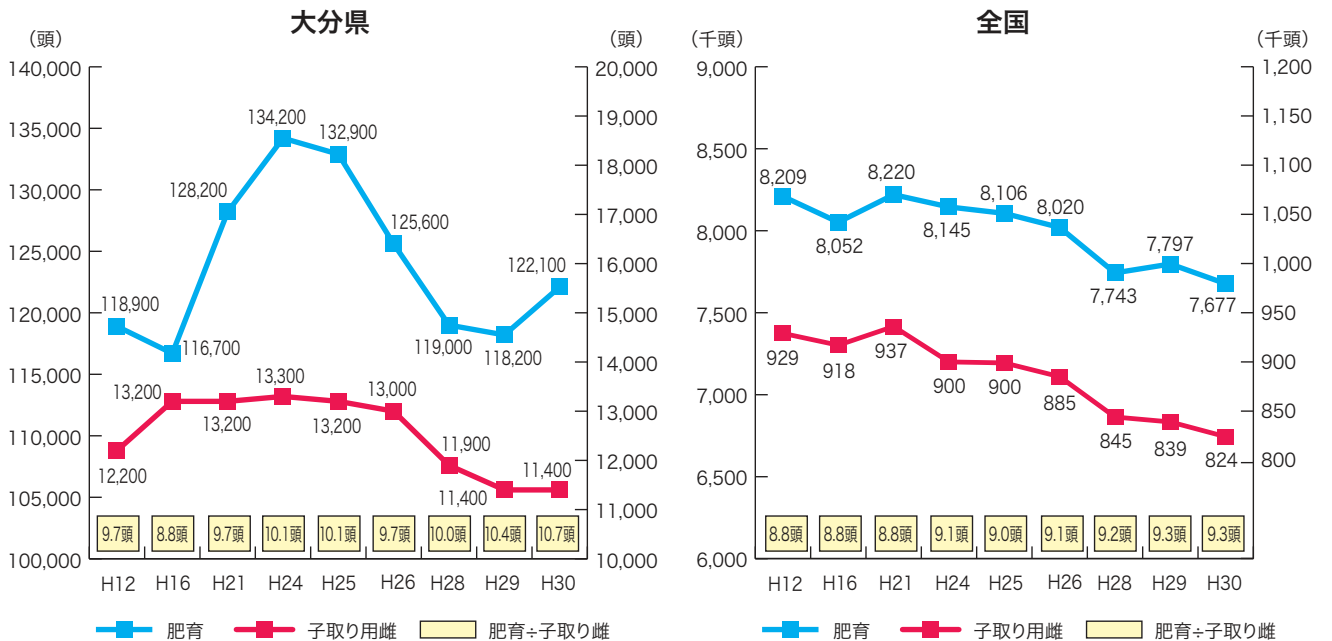


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

H30年の飼養戸数は47戸で前年比3戸減少したが、飼養頭数は137,600頭と前年比で2,900頭(2.2%)増加した。そのため、1戸あたり頭数では2,928頭/戸と前年比234頭/戸(8.7%)増加し、全国平均値2,056頭/戸に比べ高い水準を保っている。

(2) 用途別頭数の推移



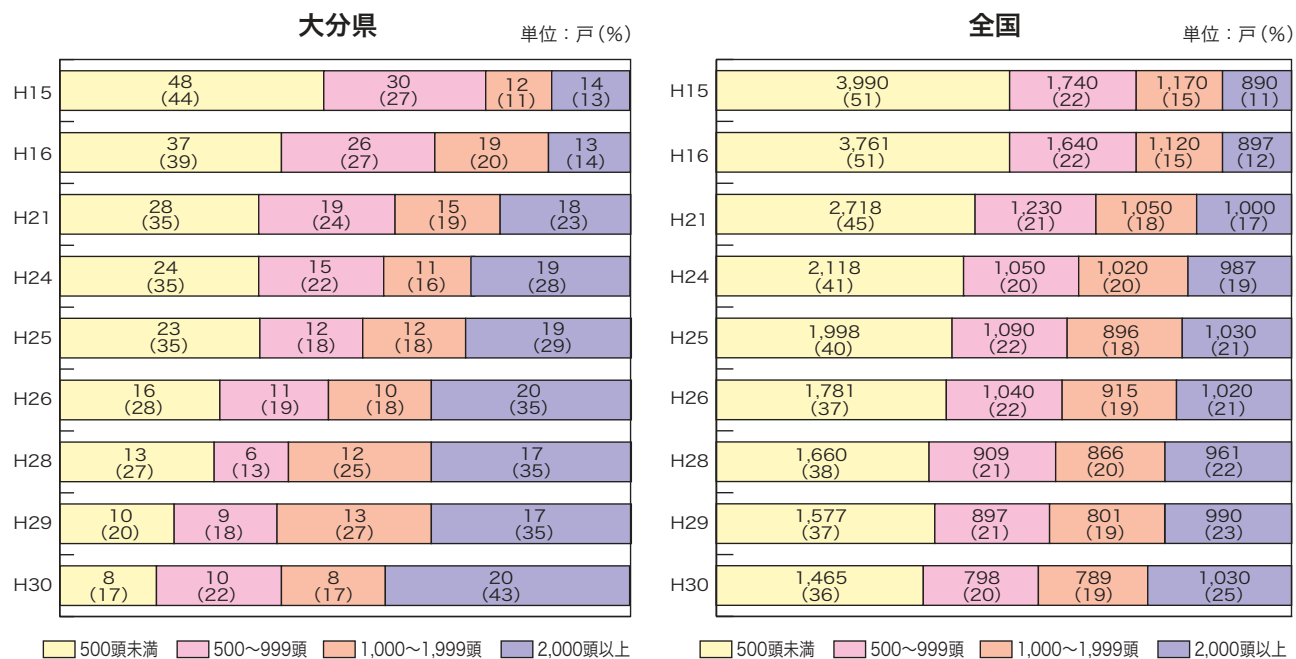
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 子取り用めす豚とは生後6ヶ月以上で子豚を生産することを目的としているめす豚のこと。

H30年の子取り用めす豚は11,400頭で前年比増減なしだったが、1戸あたりの飼養頭数は326頭で2.8%増加した。肥育豚は122,100頭で前年比3,900頭(3.3%)増加した。肥育豚頭数を子取り用めす豚頭数で除した値は全国平均を上回っている。

(3) 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数の推移



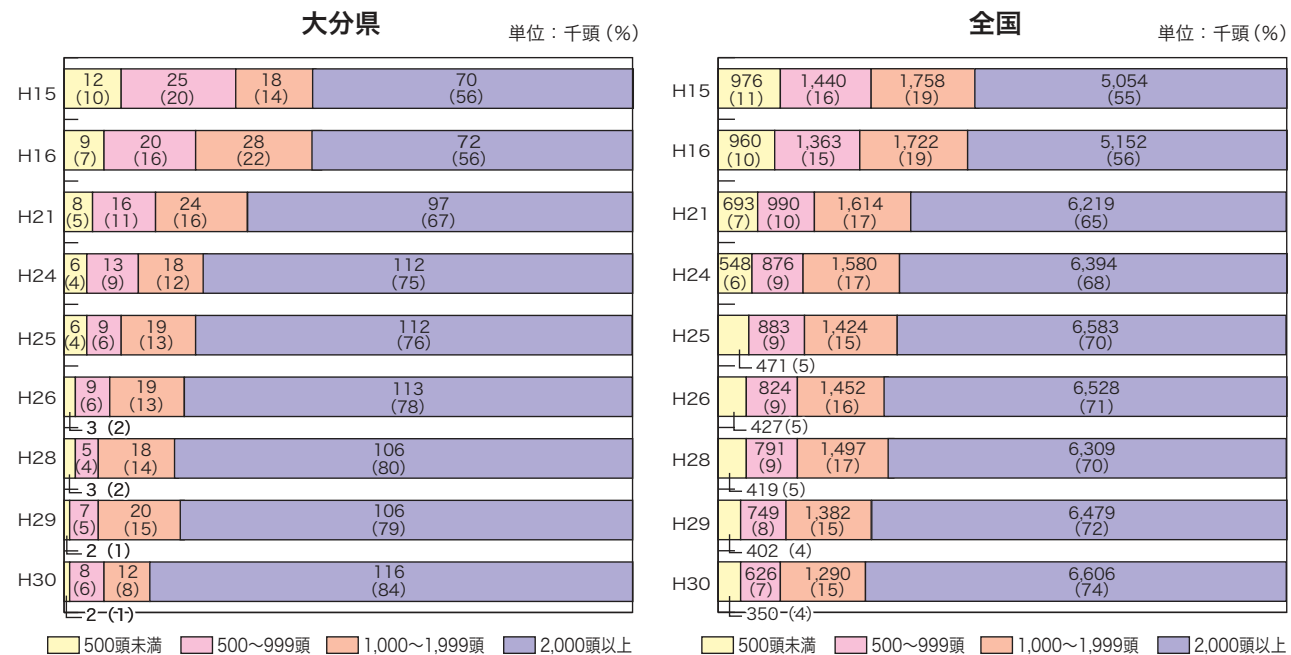
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(4) 肥育豚頭数規模別飼養頭数の推移



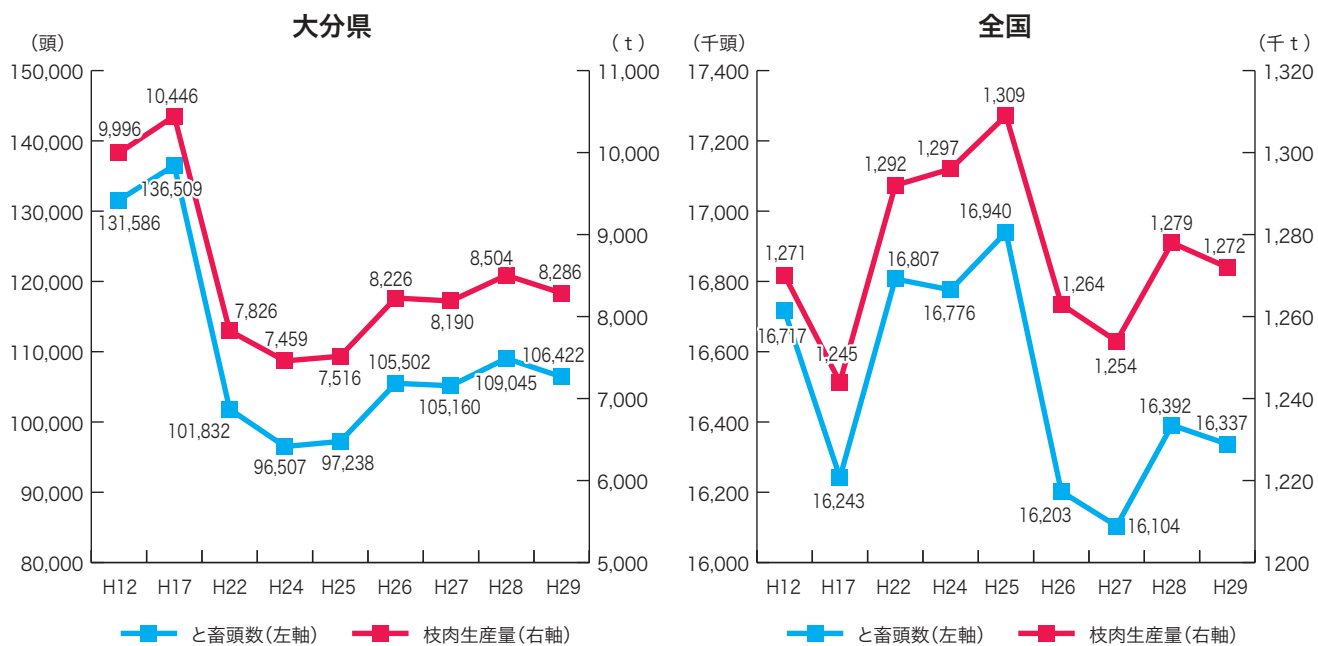
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(5) 肉豚のと畜及び枝肉の生産状況

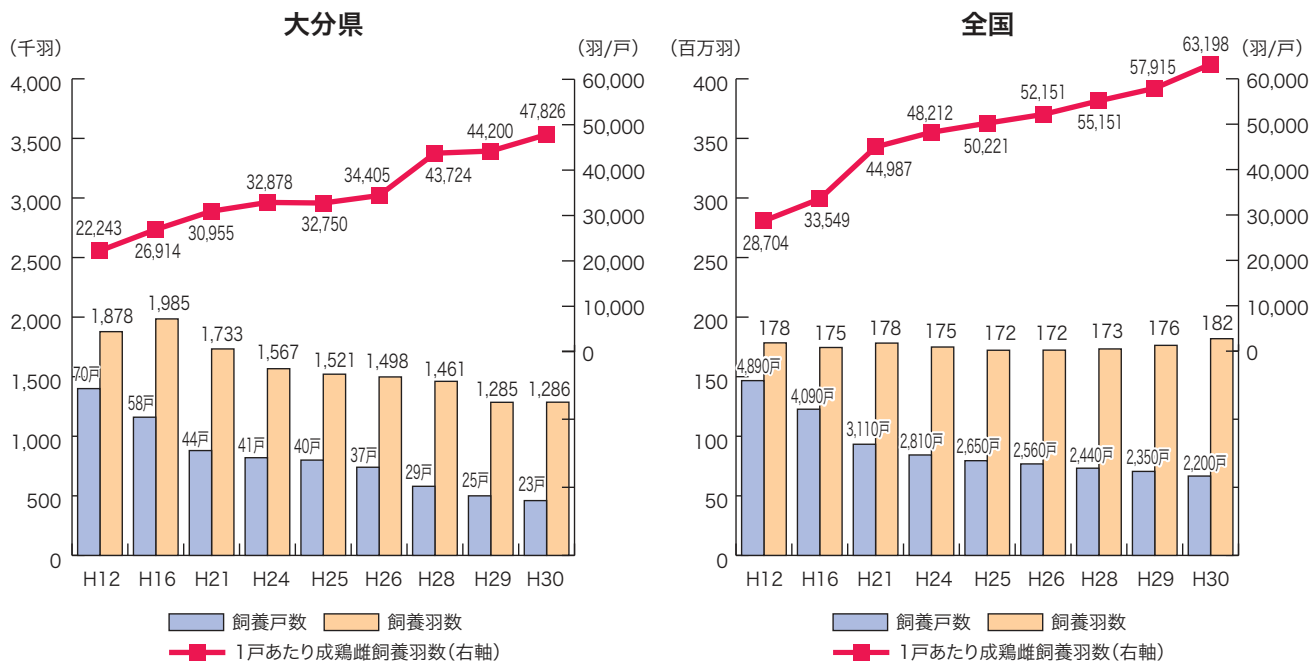


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

H29年の県内と畜頭数は106,422頭で、前年に比べ2,623頭（2.4％）減少した。
 一方で、H30年の県内肥育頭数は122,100頭と前年に比べ3,900頭（3.3％）増加している。

4. 採卵鶏

(1) 飼養戸数・羽数の推移

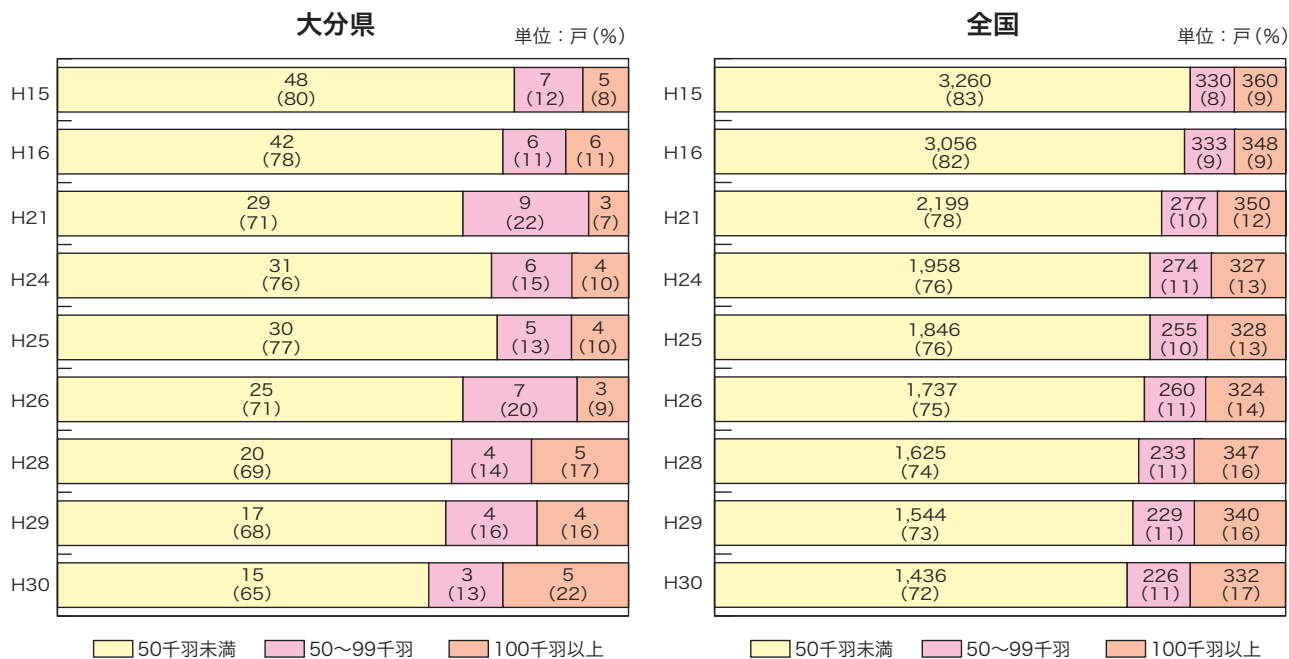


(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

(注2) 飼養戸数・羽数は種鶏のみの飼養戸数、種鶏の飼養羽数を除き、成鶏めす羽数は1,000羽未満の飼養戸数・羽数を除く。

H30年の飼養戸数は23戸と前年に比べ2戸(8.0%)減少し、飼養羽数は1,286千羽で同1千羽(0.1%)増加している。
1戸あたり成鶏めす飼養羽数は、前年に比べ3,626羽(8.2%)増加し47,826羽となったが、全国平均の63,198羽を下回っている。

(2) 成鶏めす羽数規模別飼養戸数の推移

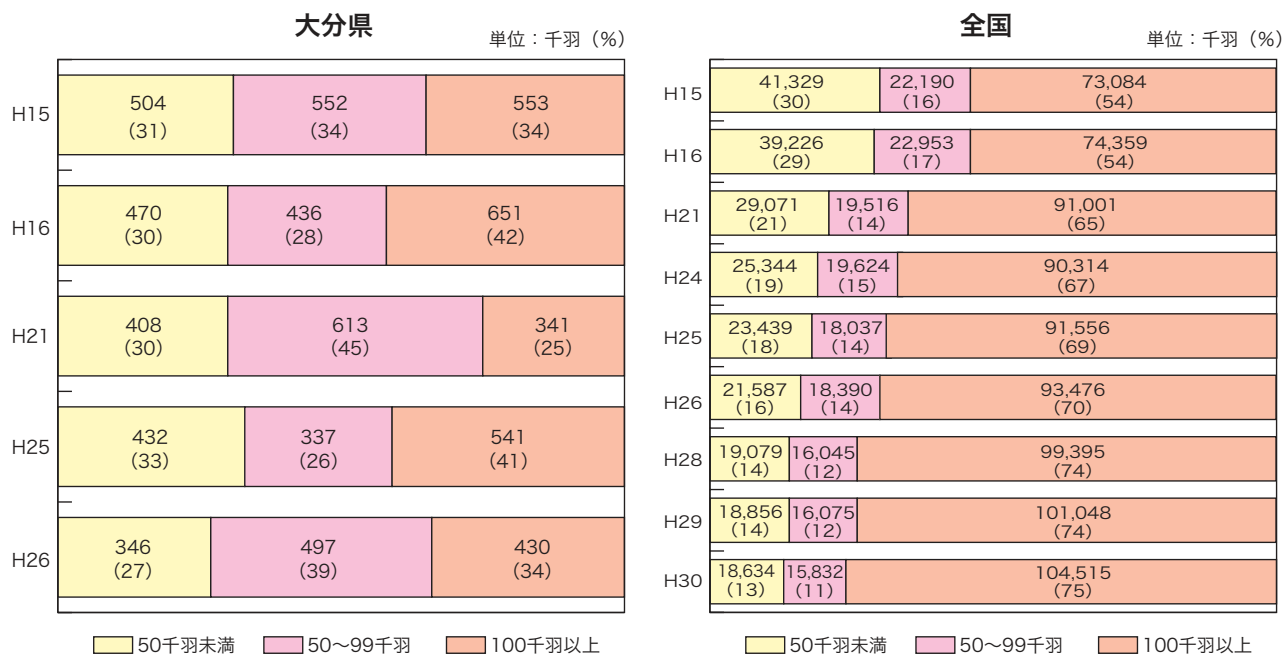


(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

(注2) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

(3) 成鶏めす羽数規模別成鶏めす飼養羽数の推移

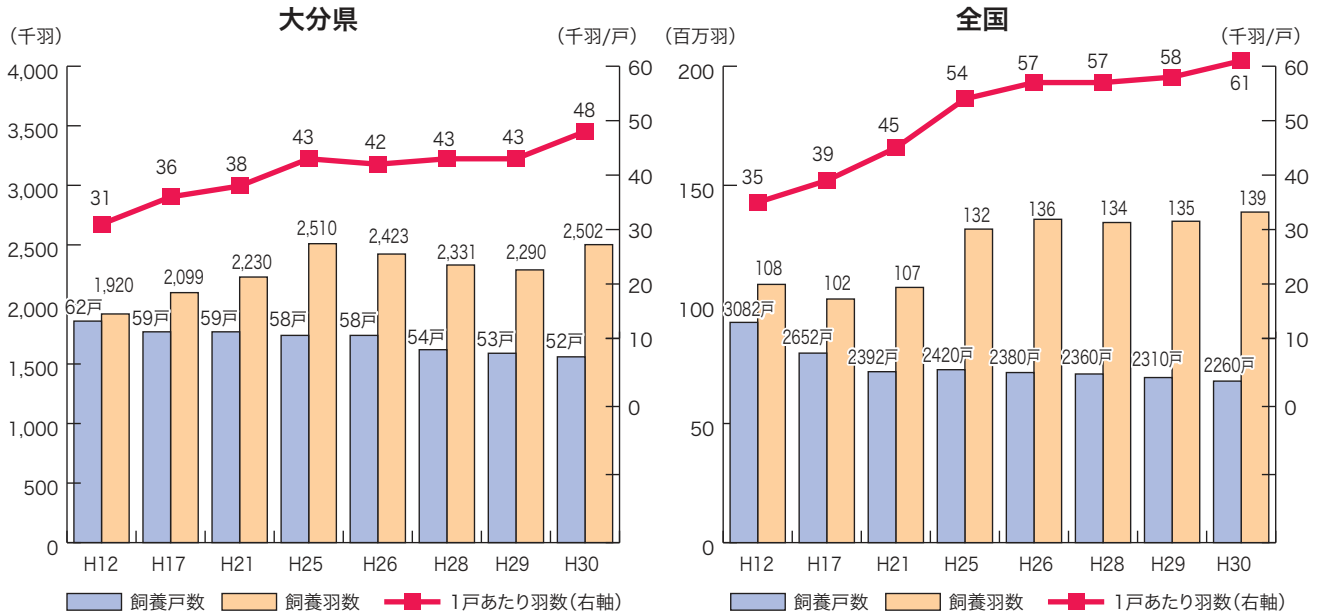


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

- (注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。
- (注2) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
- (注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。
- (注4) H24年、H28年、H29年、H30年の大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。
当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

5. プロイラー

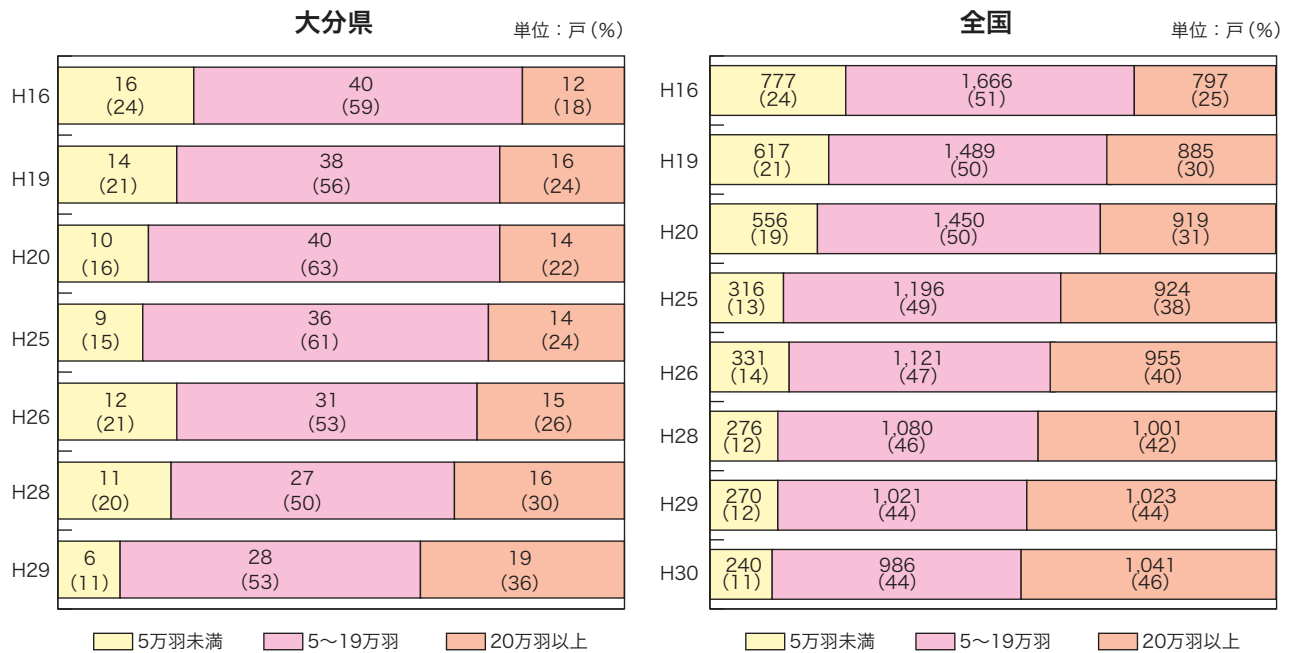
(1) 飼養戸数・羽数の推移



(注1) この統計は、2月1日現在のプロイラー飼養戸数及び飼養頭数を調査したもので、一時的に鶏舎消毒のためオールアウトしていた等により、プロイラーを飼養していない飼養者は除外したものである。
 (注2) H22年からH24年まで調査は行われなかったが、H25年から再開されている。
 (注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。

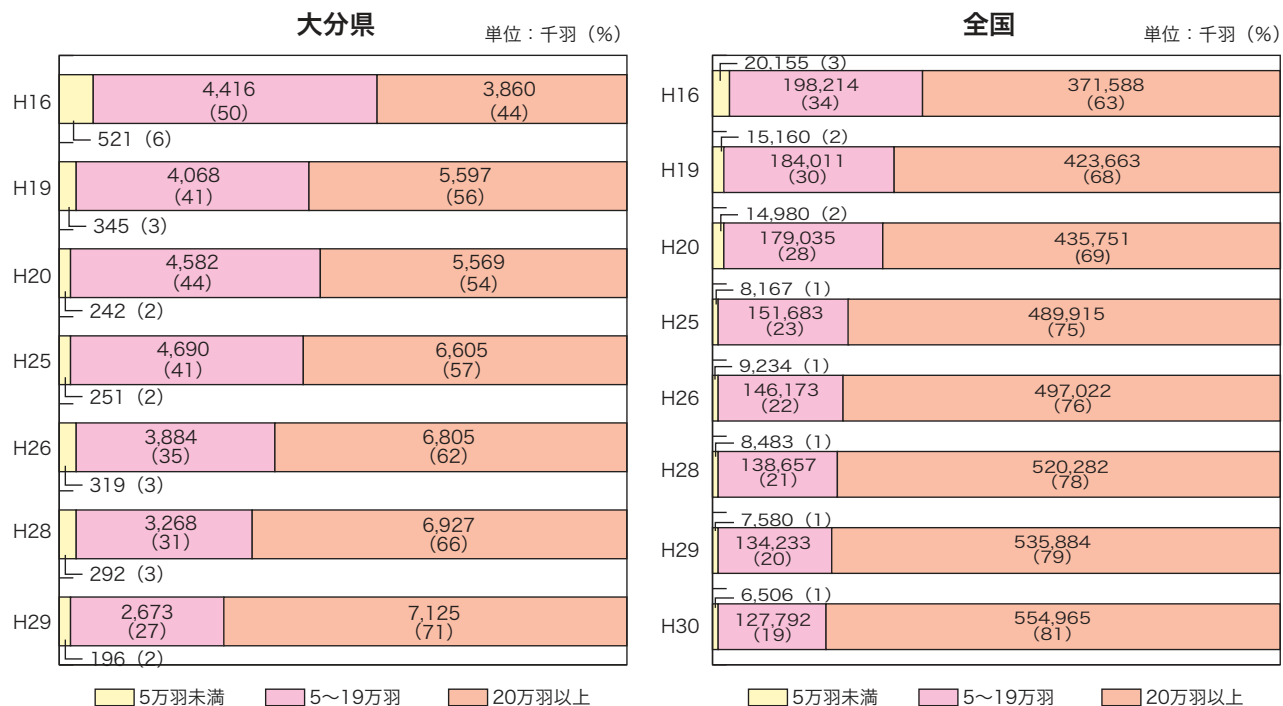
H30年の飼養戸数は52戸と前年に比べ1戸(1.9%)減少、飼養羽数は2,502千羽と212千羽(9.3%)増加したため、1戸あたり飼養羽数は48千羽と前年に比べ5千羽(11.6%)増加している。

(2) 出荷羽数規模別出荷戸数の推移



(注1) H21年からH24年は調査が行われなかったが、H25年から再開されている。
 (注2) H27年はセンサス実施年のため未公表。
 (注3) H30年の大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。
 当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(3) 出荷羽数規模別出荷羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H21年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。

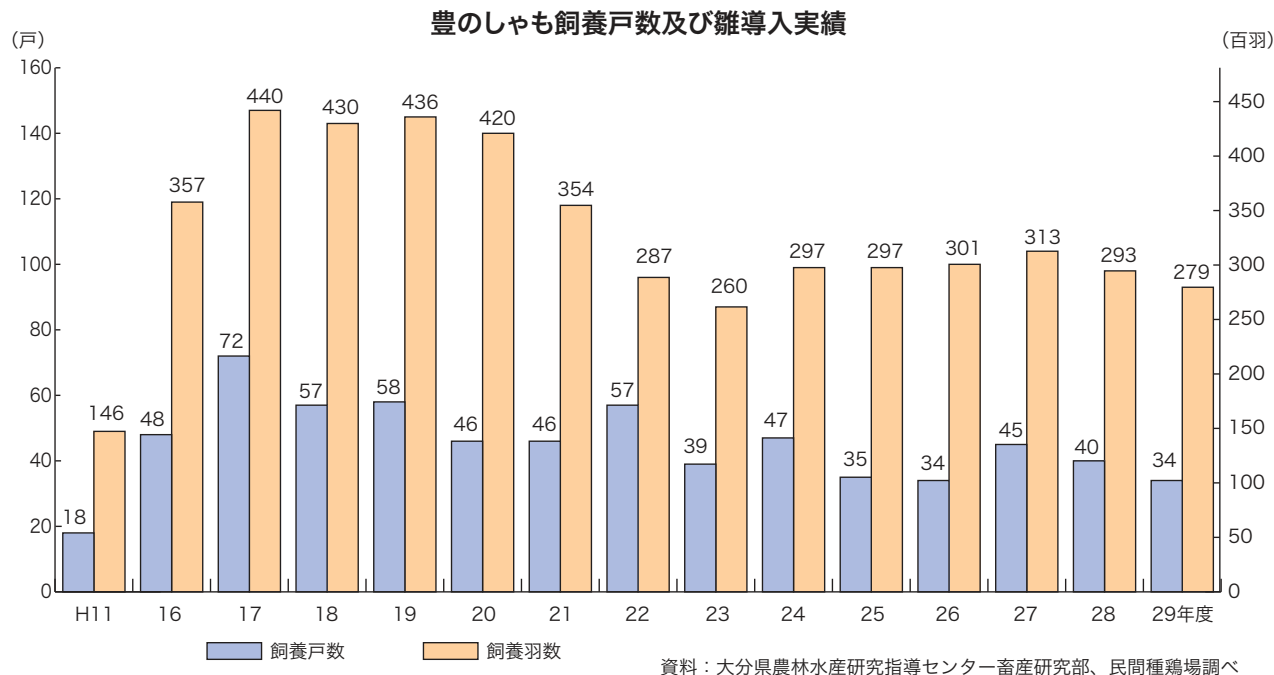
(注2) H27年はセンサス実施年のため未公表。

(注3) H30年の大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。

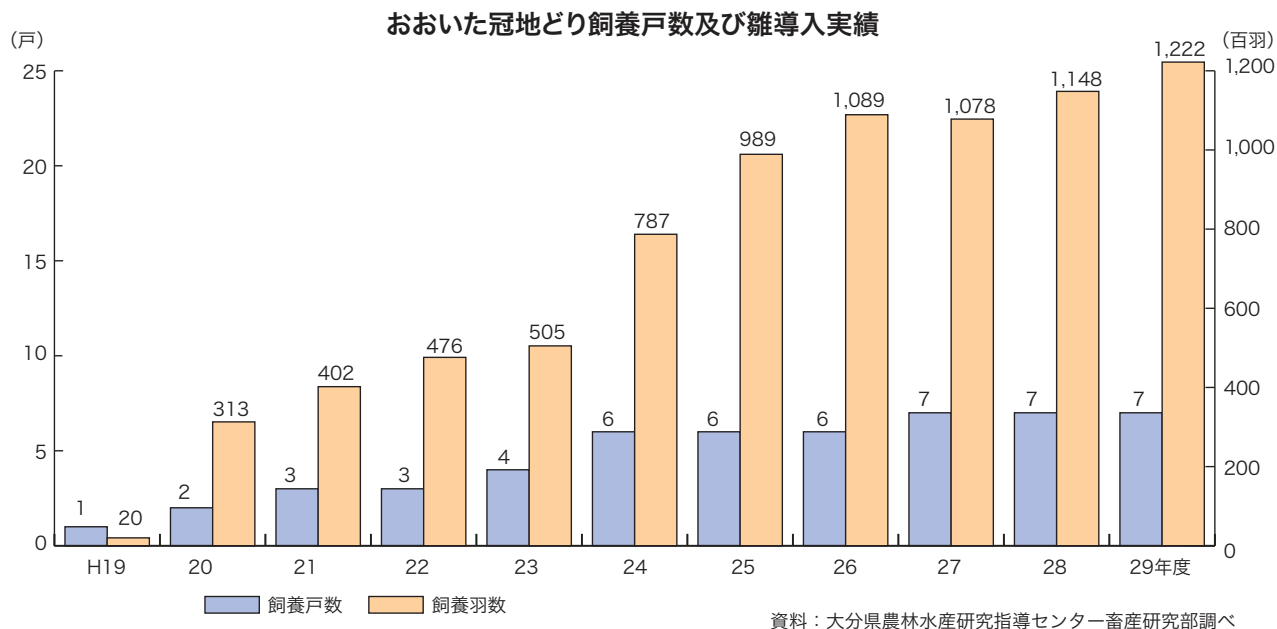
当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

6. 地鶏

(1) 豊のしゃも



(2) おおいた冠地どり



① 豊のしゃも

飼養戸数は34戸であり、前年に比べ6戸（15.0%）減少し、飼養羽数も1,400羽の減少となっている。H17年のピークに比べ、飼養戸数で47.2%、飼養羽数で63.4%まで減少している。

② おおいた冠地どり

H29年度の飼養羽数は122,200羽であり、前年に比べ7,400羽（6.4%）増加している。飼養戸数は横ばいとなっている。

(3) 地鶏取扱店

①豊のしゃも取扱店 (H30.10現在)

- ・ 県内卸小売 14店 (15店 : 93%)
- ・ 県内料理店 40店 (41店 : 98%)
- ・ 県外卸小売 9店 (9店 : 100%)
- ・ 県外料理店 32店 (29店 : 110%)
- ・ 計 95店 (94店 : 101%)

※ () 内はH28年10月時点の店舗数及びH28年10月からH30年10月にかけての伸び率 (%)
※取扱店の調査は隔年で実施するため、H29年度は調査していない。

②おおいた冠地どり取扱店 (H30.10現在)

- ・ 県内卸小売 87店 (80店 : 109%)
- ・ 県内料理店 398店 (372店 : 107%)
- ・ 県外卸小売 58店 (53店 : 109%)
- ・ 県外料理店 144店 (106店 : 136%)
- ・ 計 687店 (611店 : 112%)

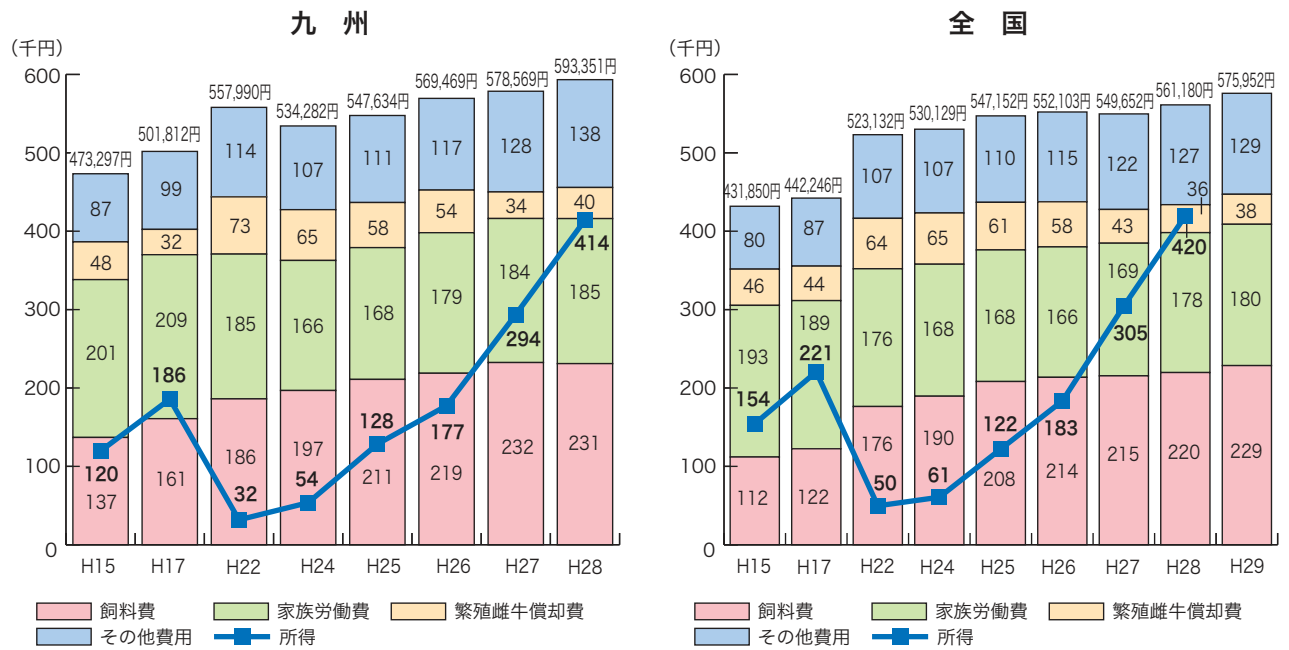
※ () 内はH28年10月時点の店舗数及びH28年10月からH30年10月にかけての伸び率 (%)
※取扱店の調査は隔年で実施するため、H29年度は調査していない。

③地鶏取扱店

豊のしゃも取扱店はH28年に比べ横ばいであるが、おおいた冠地どり取扱店の伸びが大きく県内外合計で680店舗を超えている。

7. 生産費と所得の推移

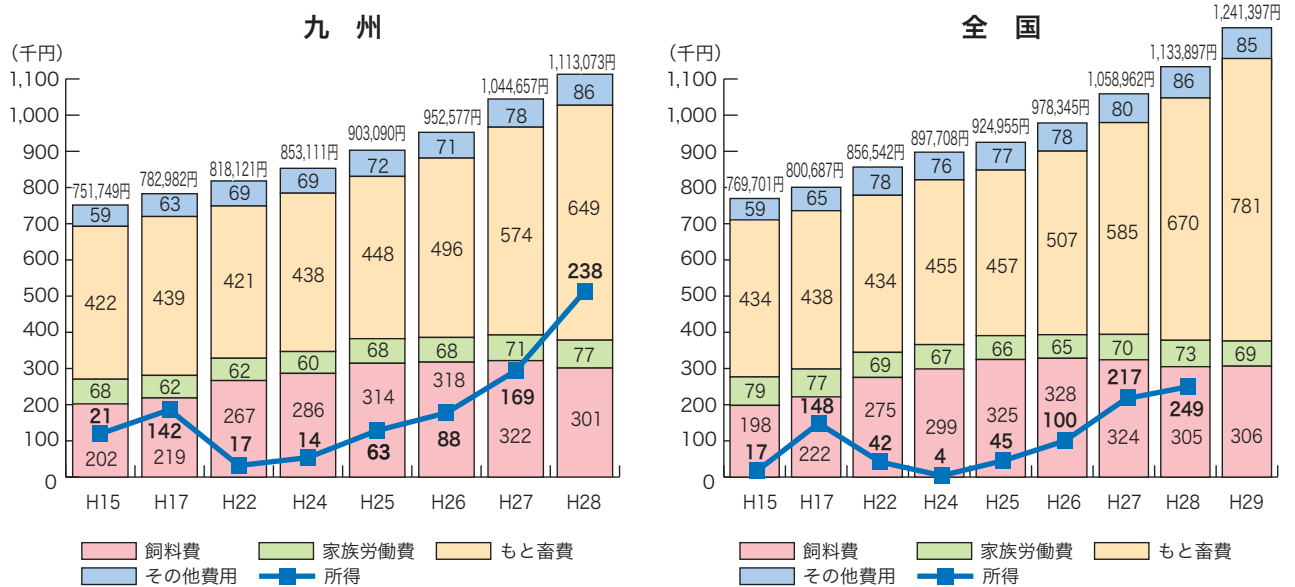
(1) 子牛の生産費（子牛1頭あたり）と所得（繁殖雌牛1頭あたり）の推移



資料：農林水産省「経営統計 畜産物経営統計」

(注) 「大分の畜産2018」作成時点において、H29年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

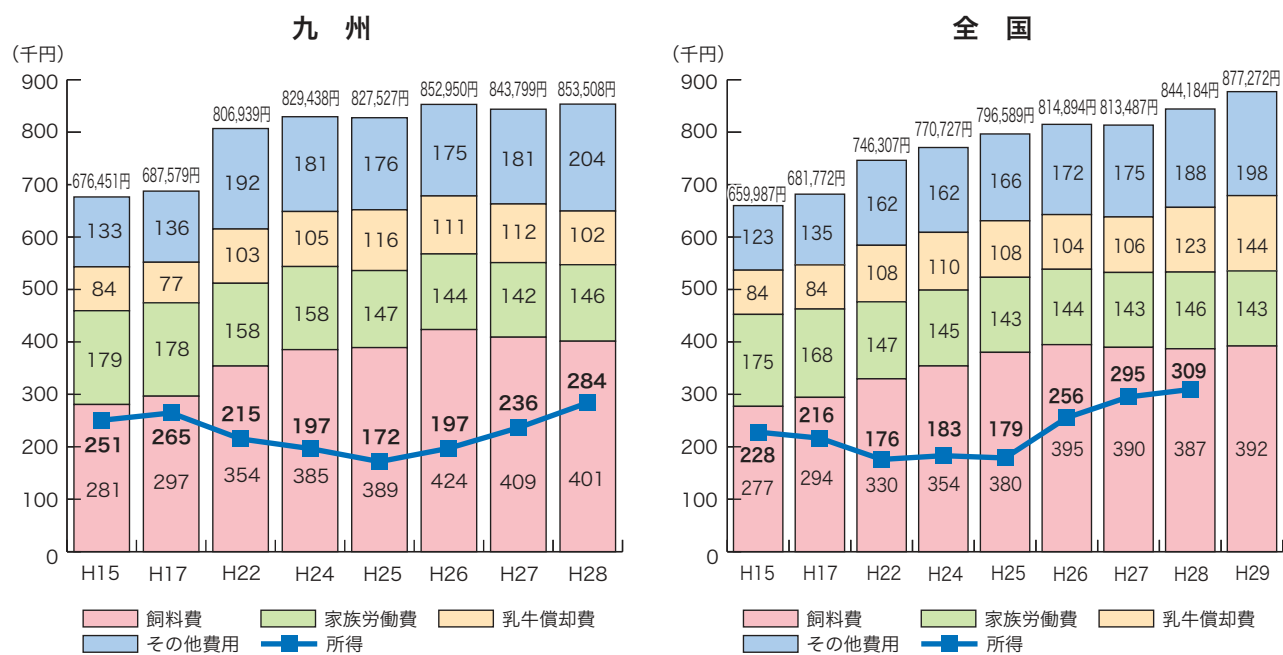
(2) 肥育牛生産費と所得の推移（去勢肥育牛1頭当たり）



資料：農林水産省「経営統計 畜産物経営統計」

(注) 「大分の畜産2018」作成時点において、H29年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

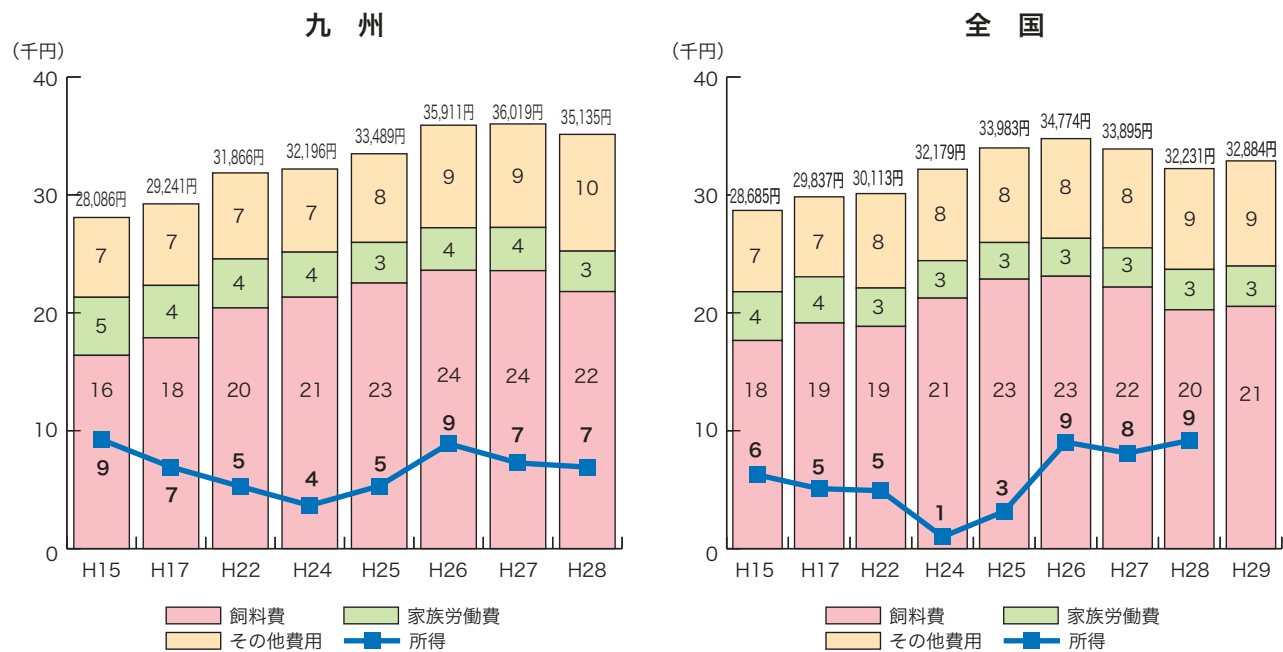
(3) 生乳生産費と所得の推移（搾乳牛通年換算1頭当たり）



資料：農林水産省「経営統計 畜産物経営統計」

(注) 「大分の畜産2018」作成時点において、H29年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

(4) 肥育豚生産費と所得の推移（肥育豚1頭当たり）

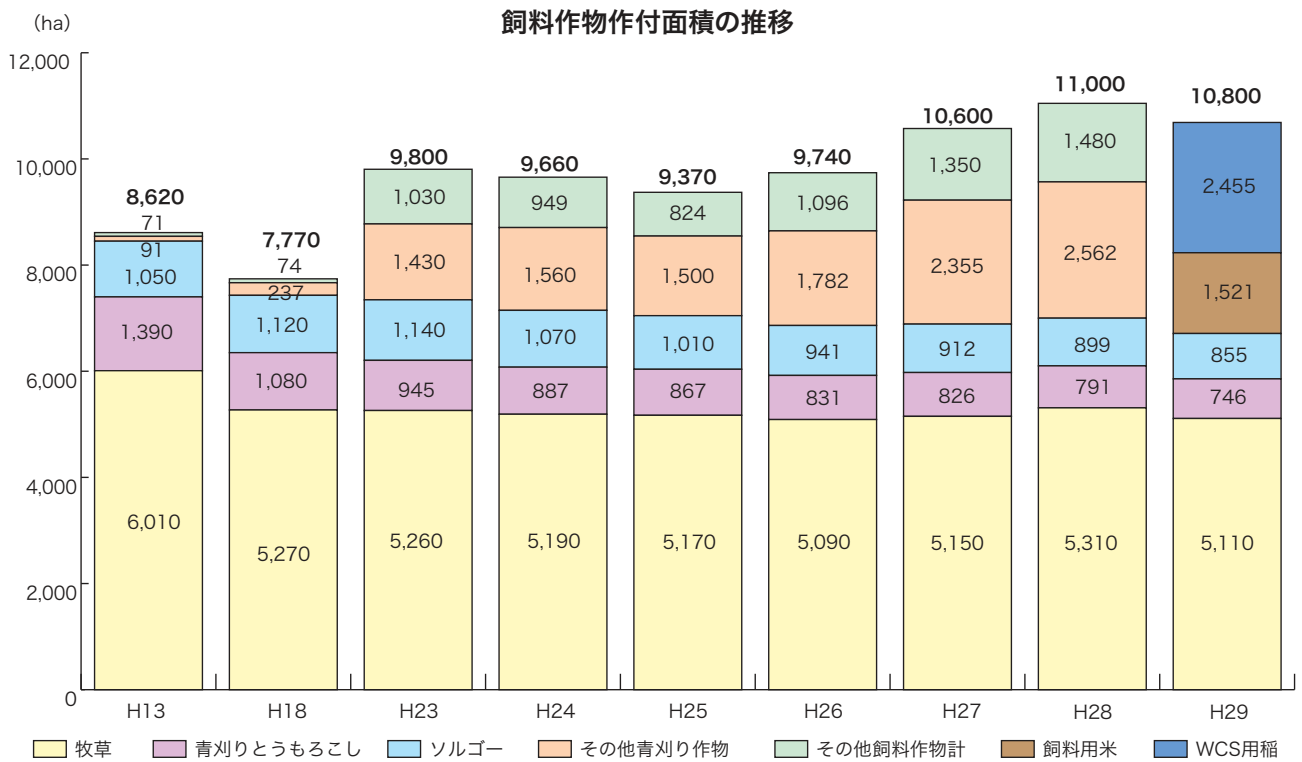


資料：農林水産省「経営統計 畜産物経営統計」

(注) 「大分の畜産2018」作成時点において、H29年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

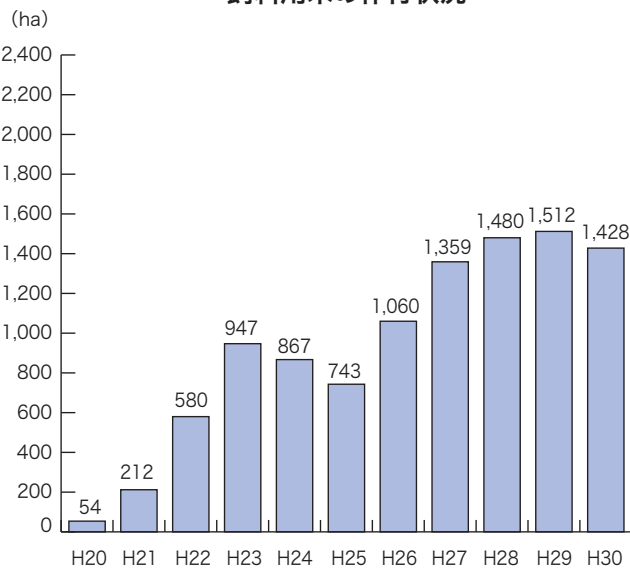
Ⅲ 飼料

1. 飼料作物作付状況

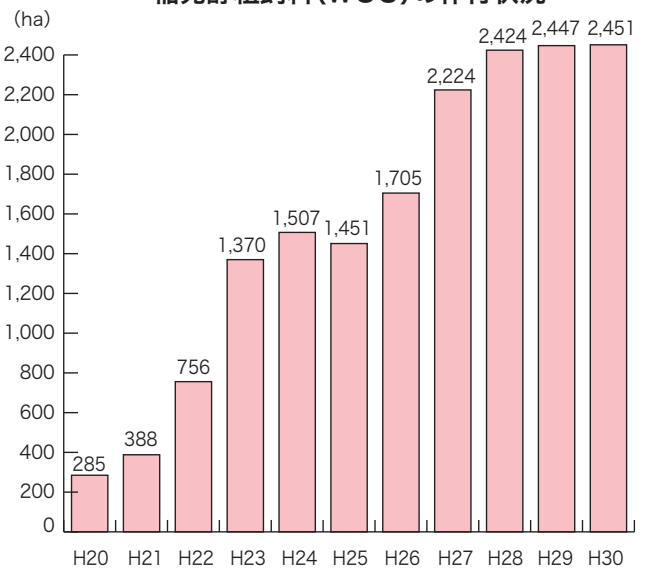


(注) H28までの調査項目「その他青刈り作物」「その他飼料作物計」は、H29から「飼料用米」「WCS用稲」に変更となっている。

飼料用米の作付状況



稲発酵粗飼料(WCS)の作付状況



資料：畜産技術室調べ

① 飼料作物作付面積

H29年の作付け面積は10,800haで、前年に比べ200ha (1.8%) 減少した。

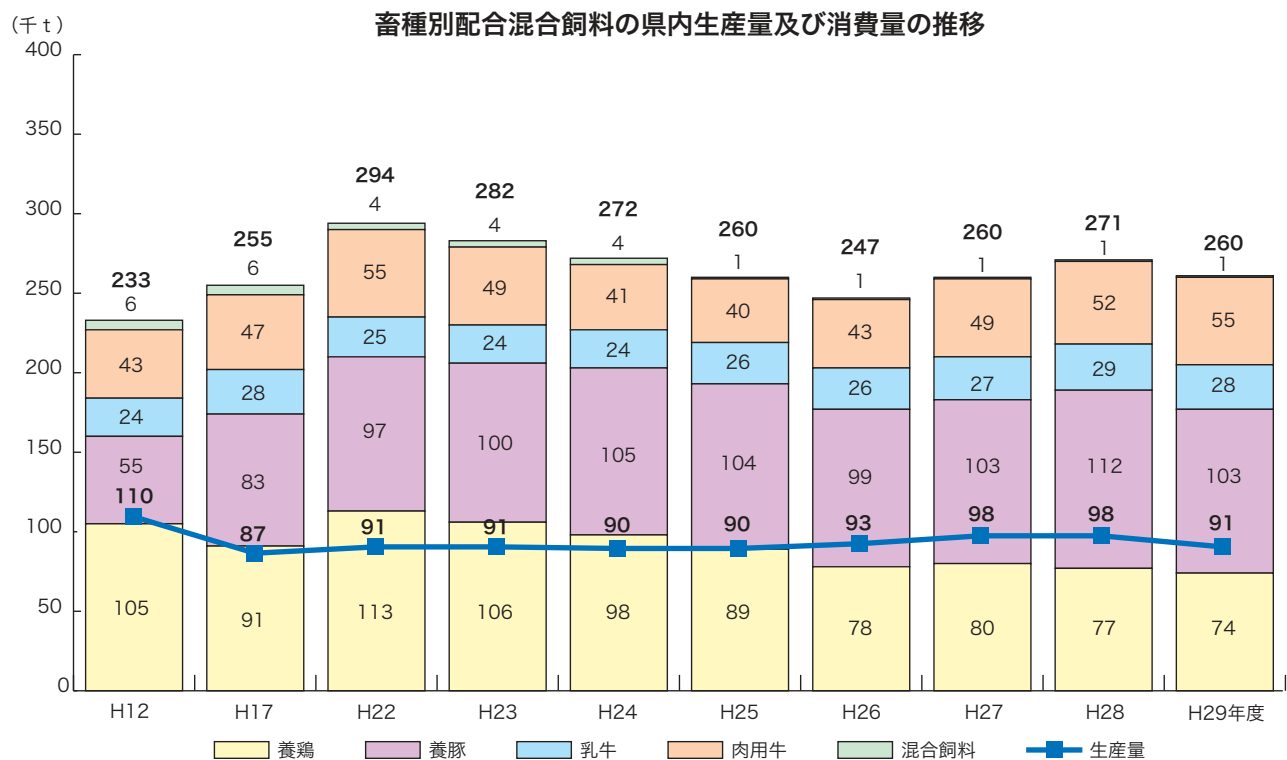
② 飼料用米の作付状況

H24、25年は減少したものの、水田活用の直接支払交付金などによりH26年から拡大に転じていたが、H30年は1,428haと、前年に比べ84ha (5.6%) 減少している。

③ 稲発酵粗飼料(WCS)作付状況

H30年の作付面積は2,451haで、前年に比べ4ha (0.2%) 増加している。

2. 配合混合飼料



(注) 混合飼料：行政や流通の上から、ある特定成分の補給又は輸入関税の免税措置を受けられることを目的に製造される配合飼料の一種。
 配合飼料：2種類以上の飼料原料を一定の割合で混合した物。我が国では一般に家畜・家さんの種類や飼料目的に応じて、必要な養分を十分含むように市販されているものが多い。
 四捨五入の関係で内訳の計は必ずしも総数に一致しない。

県内の全畜種における配合混合飼料の総消費量はH22年以降減少傾向であり、H29年は260千t(前年比95.9%)だった。また、配合混合飼料の県内生産量はH26年以降増加していたものの、H29年は91千t(前年比92.9%)となった。

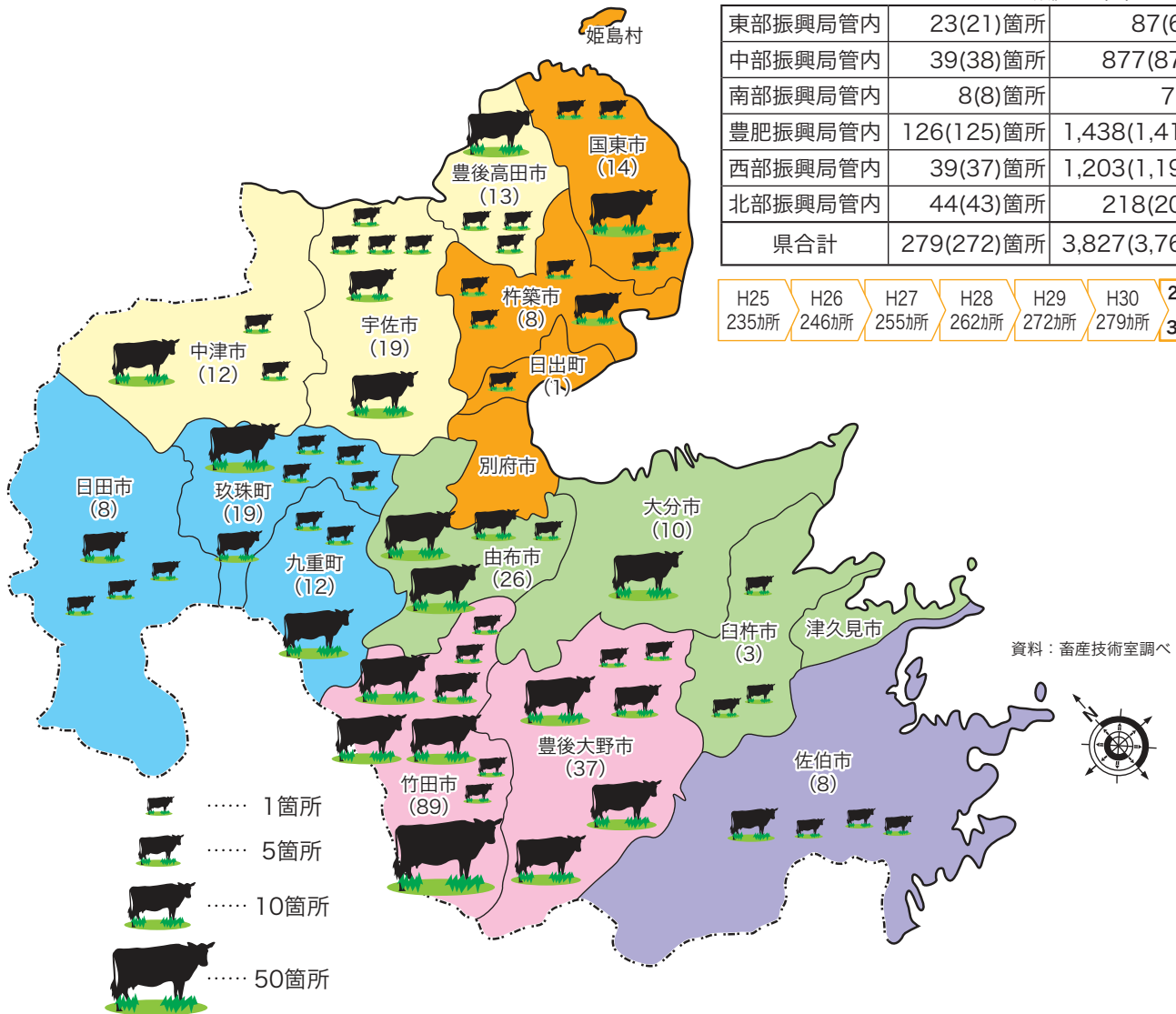
3. 放牧取組状況

(1) 大分県における「おおいた型放牧」分布図

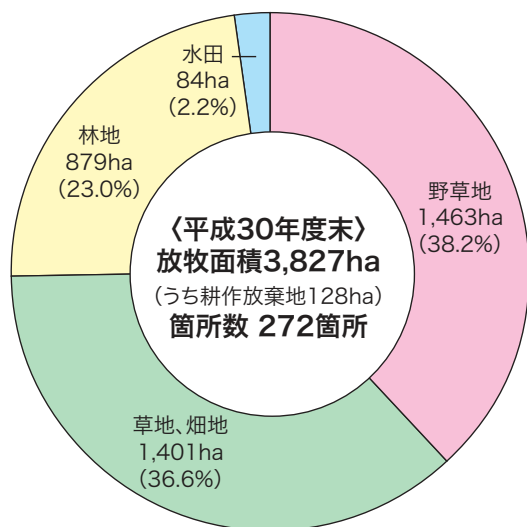
H30数値 ※()はH29年数値

| | | |
|---------|------------|----------------|
| 東部振興局管内 | 23(21)箇所 | 87(61)ha |
| 中部振興局管内 | 39(38)箇所 | 877(877)ha |
| 南部振興局管内 | 8(8)箇所 | 7(7)ha |
| 豊肥振興局管内 | 126(125)箇所 | 1,438(1,417)ha |
| 西部振興局管内 | 39(37)箇所 | 1,203(1,199)ha |
| 北部振興局管内 | 44(43)箇所 | 218(206)ha |
| 県合計 | 279(272)箇所 | 3,827(3,768)ha |

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | 2024年 目標 |
| 235箇所 | 246箇所 | 255箇所 | 262箇所 | 272箇所 | 279箇所 | 300箇所 |



(2) おおいた型放牧面積の地目別内訳



おおいた型放牧は耕作放棄地の解消や、繁殖雌牛の飼養管理の省力化を目的として、近年、導入地区が大きく増えている。特に耕作放棄地解消を目的に取り組む例が多く、地目別面積の内訳では野草地 1,463ha (38.2%)と草地、畑地 1,401ha (36.6%)で全体面積の約 75%を占めている。



シバ型草地における親子周年放牧

IV 家畜衛生・畜産環境

1. 監視伝染病の発生状況

(単位：頭・羽)

| 区分 | 監視伝染病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|----|-----|------|------|-------|------|-------------|-----|-----|-------|------|------|-------|-------|-----|------|--------|-------|---------|-----|--------|------|--------|-------|-----|--------|---------|----|--------|--------|--------|---------|------|-----|-------|
| | 法定伝染病 | | | | | | | | | | 届出伝染病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 特定家畜伝染病 | 炭疽 | 結核病 | ヨ―ネ病 | 馬伝染病 | 流行性脳炎 | ツヌル病 | 家きんサルモネラ感染症 | ふそ病 | TSE | アカバネ病 | 鼻気管炎 | 牛白血病 | ルス感染症 | 病イバラキ | 破傷風 | 気腫疽※ | ネオスポラ症 | 下痢粘膜炎 | 牛ウイルス性病 | 胃腸炎 | 伝染性豚下痢 | 豚丹毒※ | サルモネラ症 | マレック病 | 気管炎 | 伝染性喉頭炎 | ロイコチトゾン | 鶏痘 | リキウス囊病 | 伝染性フアブ | 悪性カタル熱 | レプトスピラ症 | PRRS | 豚赤痢 | チヨーク病 |
| 病名 | 高病原性鳥インフルエンザ | 牛 | 牛 | 牛 | 馬 | 豚 | 鶏 | 鶏 | み | 羊 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 豚 | 豚 | 豚 | 豚 | 牛 | 豚 | 鶏 | 鶏 | 鶏 | 鶏 | 鶏 | 牛 | 犬 | 豚 | 豚 | み | | |
| 年次 | 鶏 | 牛 | 牛 | 牛 | 馬 | 豚 | 鶏 | 鶏 | み | 羊 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 牛 | 豚 | 豚 | 豚 | 豚 | 牛 | 豚 | 鶏 | 鶏 | 鶏 | 鶏 | 鶏 | 牛 | 犬 | 豚 | 豚 | み | | |
| H10 | | | | | | | | | | | 11 | 1 | 11 | 4 | | | | | | | | | 9 | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | 21 | | 31 | 10 | | 2 | | | | | | | 4 | 2 | 69 | 100 | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | 20 | | | 8 | 1 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | 1 | | | | | | | | | 11 | | | | | | | | | | | 8 | | | | | | | | 1 | | | | |
| 14 | | | | 1 | | | | | | | | | 24 | | | | | | | | | | 42 | 11 | | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| 15 | | | | 13 | | | | | | | | 14 | 61 | | 1 | | | | | | | 40 | 127 | 48 | 2 | | | | | | | | | | | |
| 16 | 1 | | | 8 | | | | | | | | 3 | 54 | | 2 | 1 | | | | | | 90 | 4 | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 17 | | | | 2 | | | | | | | | | 48 | | | | | | | | | 150 | 83 | 5 | 9 | | | | | | | | | | | |
| 18 | | | | 10 | | | | 1 | | | 8 | | 73 | | | | | | | | | 102 | 3 | 6 | | | | | | | | | | 4 | | |
| 19 | | | | 5 | | | | | | | 2 | 1 | 53 | | | | | | | | | 98 | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | 5 | | | | | | | 1 | | 38 | | | | | 1 | | | | 91 | 9 | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | 9 | | | | | | | 2 | | 40 | | | | 1 | | 3 | | | 156 | 8 | | 6 | 100 | | | | | | 2 | 7 | | | |
| 22 | | | | 6 | | | | | | | | 1 | 44 | | | | | | 1 | | | 137 | 3 | | | | | | | | | 2 | 1 | | | |
| 23 | 9 | | | 7 | | | | | 1 | | | 1 | 56 | | | | | | 1 | | | 69 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 24 | | | | 4 | | | | | | | | | 30 | | | | | | 1 | | | 43 | 7 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | 1 | | | | | | | | | 39 | | | | | | | | | 28 | | 8 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 26 | | | | 5 | | | | | | | | | 25 | | | | 1 | | | | 15 | 112 | 3 | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | | | | | | | 31 | | | | | | | | | 242 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 28 | | | | 3 | | 11 | | | | | | | 52 | | | | | | | | | 209 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 29 | | | | 2 | | | | | | | | 8 | 47 | | | | | | | | | 28 | 10 | | | | | | | | | | | | | |

※印の疾病は平成9年度まで法定伝染病
 出展：農林水産省「監視伝染病の発生状況」より



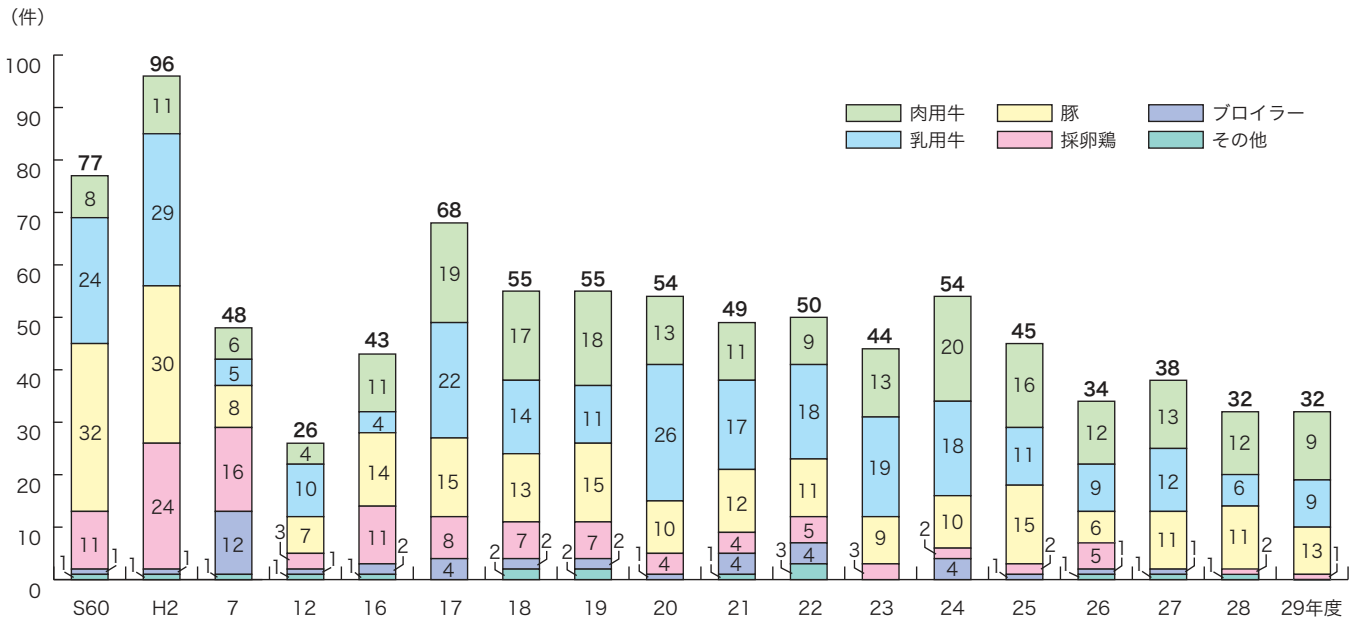
防疫演習



防疫演習

2. 環境汚染問題畜種別発生件数

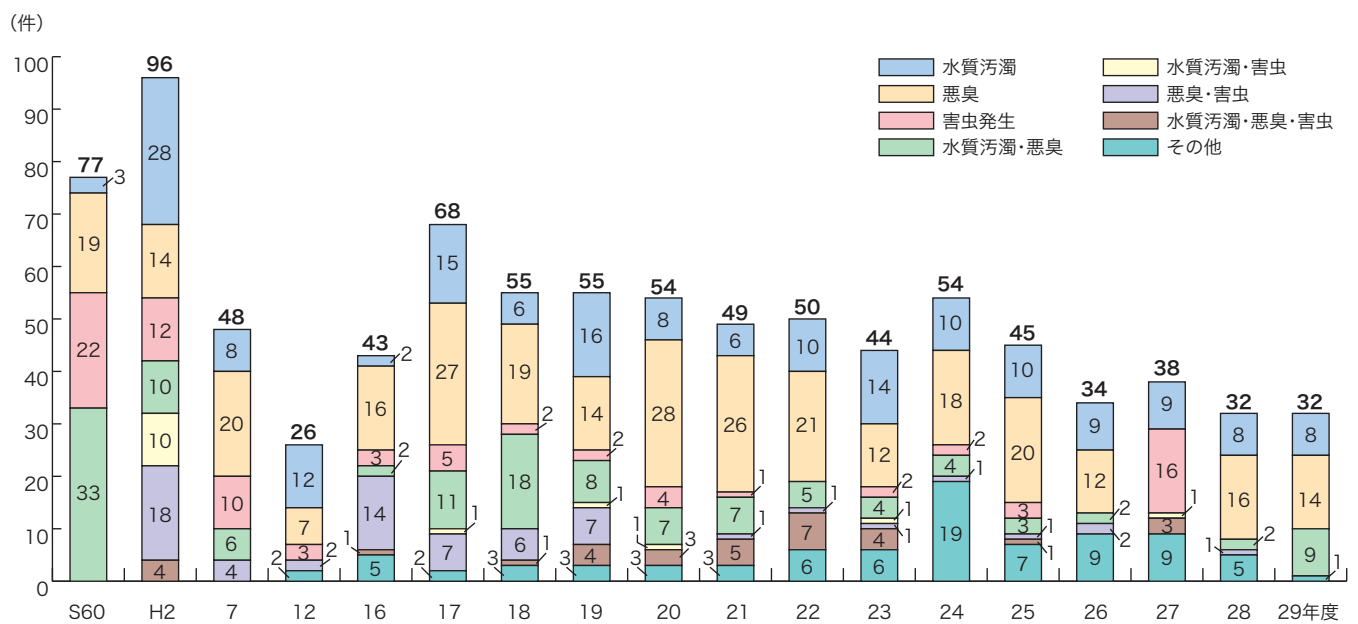
(1) 畜種別苦情発生件数



(注) 各年度の調査期間は当該年度の7月から翌年の6月まで。

畜産振興課調べ

(2) 種類別苦情発生件数



(注) 各年度の調査期間は当該年度の7月から翌年の6月まで。

畜産振興課調べ

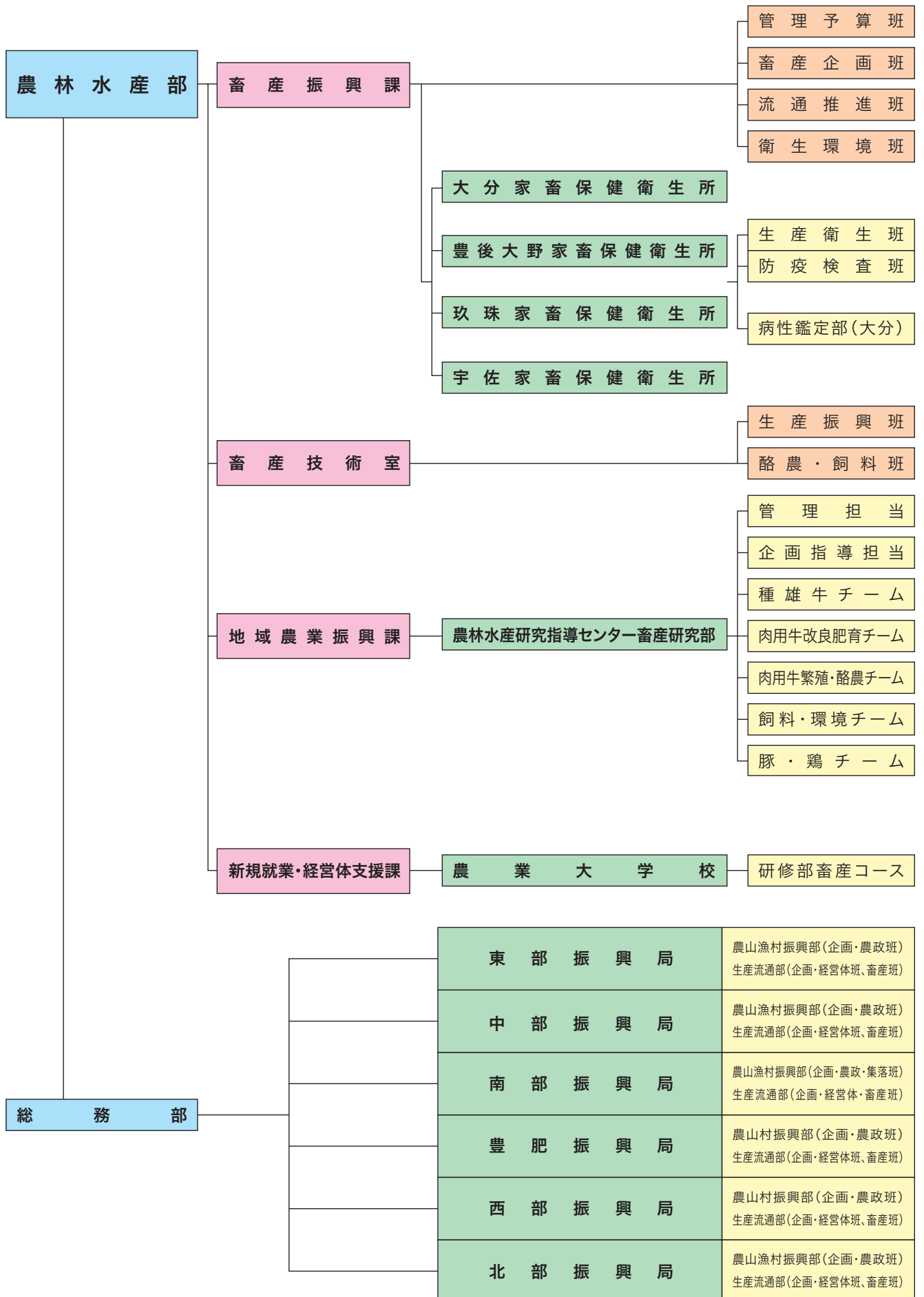
(資料 1)

畜産関係団体等一覧

| 名称 | 代表者 | 郵便番号 | 住 所 | 電話番号 | FAX 番号 |
|-------------------------|------------------|----------|---|-----------------------|----------|
| (公社)大分県畜産協会 | 会 長 近藤 和義 | 870-0844 | 大分市古国府 1220 (JA全農大分県本部内) | 097-545-6591 | 554-4049 |
| 大分県家畜人工授精師協会 | 会 長 沓掛 義範 | 870-8501 | 大分市大手町 3-1-1 (県庁畜産振興課内) | 097-506-3678 | 506-1762 |
| 大分県草地飼料協会 | 会 長 首藤 勝次 | 870-8501 | 大分市大手町 3-1-1 (県庁畜産技術室内) | 097-506-3684 | 506-1762 |
| (一社)大分県配合飼料価格 安定基金協会 | 理事長 佐藤 祐一郎 | 870-0025 | 大分市顕徳町 2-1-3 カーサ阿部 203 | 097-534-2727 | 534-0991 |
| 大分県家畜商業協同組合 | 理事長 石田 和男 | 870-0044 | 大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階) | 097-532-8577 | 532-8582 |
| (公社)大分県獣医師会 | 会 長 麻生 哲 | 870-1201 | 大分市廻栖野 3231 番地 47 おおいた動物愛護センター 管理棟 2 階 | 097-574-5211 | 574-5221 |
| (株)大分県畜産公社 | 代表取締役社長 二宮 伊作 | 879-7305 | 豊後大野市犬飼町田原 1580-29 | 097-578-0290 | 578-0308 |
| (有)大分県酪農振興公社 | 代表取締役 本川 一喜 | 870-1201 | 大分市廻栖野 3231 (大分県酪内) | 097-586-4222 | 586-4226 |
| (公社)全国和牛登録協会 大分県支部 | 支部長 近藤 和義 | 870-0844 | 大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階) | 097-574-8588 | 574-8258 |
| 大分県養豚協会 | 会 長 工藤 厚憲 | 870-0844 | 大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内) | 097-545-6593 | 554-4049 |
| 大分県養鶏協会 | 会 長 荒牧 洋一 | 870-0844 | 大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内) | 097-545-6593 | 554-4049 |
| 大分県養蜂組合 | 組合長 枝次 秀樹 | 879-5506 | 由布市挾間町挾間 604 | 097-583-3307 | — |
| 大分県食肉事業協同組合 連合会 | 会 長 清田 浩徳 | 870-1121 | 大分市鷲野 929-3 | 097-529-6544 | 529-6599 |
| 大分県農業協同組合中央会 | 会 長 二宮 伊作 | 870-0044 | 大分市舞鶴町 1-4-15 (大分県農業会館内) | 097-538-6366 | 538-7125 |
| 大分県信用農業協同組合 連合会 | 代表理事理事長 舩石 信和 | 870-0044 | 大分市舞鶴町 1-4-15 (大分県農業会館内) | 097-538-6385 | 535-2746 |
| 全国農業協同組合連合会 大分県本部 | 本部長 長野 博文 | 870-0844 | 大分市古国府 1220 | 097-544-0046 | 545-9532 |
| 大分県農業共済組合 | 組合長理事 阿部 順治 | 870-0822 | 大分市大道町 3-1-1 | 097-544-8110 | 544-8242 |
| 大分県酪農業協同組合 | 代表理事組合長 清末 健一 | 870-1201 | 大分市廻栖野 3231 | 097-586-4222 (管理部) | 586-4226 |
| 九州乳業株式会社 | 代表取締役社長 檜垣 周作 | 870-1201 | 大分市廻栖野 3231 | 097-586-4135 | 586-4136 |
| (一社)大分県酪農ヘルパー協会 | 会 長 清末 健一 | 870-1201 | 大分市廻栖野 3231 (大分県酪内) | 097-586-4225 (酪農部) | 586-4226 |
| 大分県牛乳普及協会 | 会 長 清末 健一 | 870-1201 | 大分市廻栖野 3231 (大分県酪中央支所内) | 097-586-4094 | 586-4095 |
| (株)大分県酪食肉公社 | 代表取締役 安藤 康宣 | 870-0108 | 大分市大字三佐字新港 2405-2 | 097-521-4452 | 522-2743 |

(資料 2)

県畜産関係組織図 (平成30年4月1日現在)



(資料 3)

平成30年 農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事

| 月 日 | 内 容 |
|-------------|---|
| 1月8日 | アルプわさだハウジングタウンイベントにて「おおいた豊後牛」、「米の恵み」を PR |
| 1月29日～2月28日 | 「米の恵み」取扱店にて消費拡大キャンペーンを実施（県内） |
| 2月4日 | べつだいウォークにて「米の恵み」豚汁を提供し PR（県内） |
| 2月10日～12日 | 全国獣医師大会（別府市） [写真 ① ②] |
| 2月11日 | OBS ラジオまつりで「おおいた豊後牛」、「米の恵み」を PR |
| 2月11日～20日 | イオン京都桂川店にて大分フェア開催（京都） |
| 2月19日～3月9日 | 「米の恵み」取扱店にて消費拡大キャンペーンを実施（県内） |
| 3月1日～4月24日 | 横浜ロイヤルパークホテルでの「おおいた豊後牛」の PR（横浜） |
| 3月17日～18日 | おおいた春の肉祭りにて「おおいた豊後牛」、「米の恵み」を PR（大分駅前広場） |
| 3月15日 | 農林水産省、（一社）日本草地畜産種子協会、大分県、大分県草地飼料協会の共催により日本型放牧推進シンポジウム開催（別府市） |
| 6月8日～10日 | 全国地鶏リレーにて「おおいた冠地どり」を PR（東京、大阪：玉川高島屋、日本橋タカシマヤ、阪急うめだ本店） |
| 6月23日～24日 | 全国食育推進大会（大分駅、ホルトホール） |
| 7月27日 | 九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会（長崎県） |
| 7月27日 | 農研機構、大分県、大分県草地飼料協会の共催により農研機構国際シンポジウム開催（別府市） |
| 8月4日～5日 | OBS サマーフェスタにて「おおいた豊後牛」、「米の恵み」を PR（大分市：若草公園） |
| 8月17日～23日 | 県庁レストランぶんどにて県産鶏肉・鶏卵・地鶏フェア開催（消費拡大を PR） |
| 8月24日～26日 | イオンレイクタウン mori にて大分フェア開催（埼玉県） [写真 ⑦ ⑧] |
| 9月4日 | おおいた豊後牛リーディングブランド発表会（県内） [写真 ⑨ ⑩] |
| 9月5日～ | 県内 28 店舗にておおいた和牛 PR キャンペーンを実施 |
| 9月13日 | 県農林水産研究指導センター畜産研究部で候補種雄牛選抜会を実施。 ゲノム評価で好成績だった葵白清等 4 頭を選抜 |
| 9月14日～17日 | イオン九州にて大分フェア開催（九州） |
| 9月22日～24日 | OBS 感謝祭にて「おおいた和牛」、「米の恵み」、「おおいた冠地どり」、「豊のしゃも」を PR（大分市：大銀ドーム） [写真 ⑪] |
| 9月26日～27日 | 全国家畜保健衛生業績発表会（東京都） |
| 10月1日～14日 | 「米の恵み」書道コンクールにて消費拡大 PR（県内） |

平成30年 農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事

| 月 日 | 内 容 |
|------------|---|
| 10月6日 | 大分県畜産共進会（肉牛の部）開催（豊後大野市：(株)大分県畜産公社） (株)大分県畜産公社宇佐牧場（宇佐市）が農林水産省生産局長省、(株)真玉キャトルファーム（豊後高田市）が九州農政局長省を受賞 |
| 10月13日～14日 | 大分県農林水産祭（農林業の部）開催（別府市：別府公園）[写真 13 14] |
| 10月14日 | 大分県畜産共進会（肉用牛の部）開催（別府市：別府公園文化ゾーン） 佐藤富雄氏（由布市）が農林水産大臣賞、見崎博憲氏（竹田市）が九州農政局長賞を受賞 [写真 15 16] |
| 10月14日 | 別府湯けむりマラソン大会にて「米の恵み」豚汁を提供し PR（県内） |
| 10月17日 | 大分県特定家畜伝染病（HPAI）防疫演習を実施（竹田市） |
| 10月25日 | 大分県畜産共進会（乳用牛の部）開催（大分市：みどりの王国） 農林水産大臣賞に岡嶋建一郎氏（九重町）、九州農政局長賞を(有)中央牧場（日田市）が受賞 [写真 17] |
| 10月27日 | 在京大分県人会にて「おおいた和牛」の PR（京都府） |
| 10月27日～28日 | OAB 感謝祭にて「おおいた和牛」、「米の恵み」を PR（大分市：ホルトホール） |
| 11月2日～3日 | 全国農林水産祭（東京都）[写真 18] |
| 11月3日～4日 | おおいた秋の肉祭りにて「おおいた和牛」、「米の恵み」、「おおいた冠地どり」を PR（杵築市：農業文化公園） |
| 11月16日 | 平成 30 年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会 |
| 11月19日 | 「おおいた和牛」×千房・BECO コラボレーション記者発表会 [写真 19 20] |
| 11月～1月 | ぶれじでんと千房、ステーキ BECO おおいた和牛フェア |
| 11月20日 | 第 17 回大分県肉用牛生産者の会共励会開催（福岡市：福岡市中央卸売市場食肉市場） 和牛の部で(株)浦田牧場（宇佐市）が大分県知事賞、交雑牛の部で藤本信一氏（豊後高田市）が大分県知事賞（交雑牛の部）を受賞 |
| 11月29日 | いい肉の日「おおいた和牛」PR イベントを実施 |
| 11月29日～ | おおいた豊後牛消費拡大キャンペーンを実施 |
| 12月5日 | 第 72 回大分県肉牛枝肉共励会（大阪市：大阪市中央卸売市場南港市場） 和牛の部で(株)甲斐農産（宇佐市）、交雑牛の部で北崎敏文氏（豊後高田市）が最優秀賞を受賞 |

平成30年 農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事



① 全国獣医師大会



② 全国獣医師大会



③ ラグビーの日伊戦おおいた和牛提供



④ ラグビーの日伊戦おおいた和牛提供



⑤ 牛乳消費拡大イベント（大銀ドーム）

平成30年 農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事



⑥ OBS七夕まつり（若草公園）



⑦ イオンレイクタウンmori大分フェア



⑧ イオンレイクタウンmori大分フェア



⑨ おおいた和牛発表会



⑩ おおいた和牛発表会

平成30年 農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事



11 OBS感謝祭



12 国民文化祭



13 農林水産祭



14 農林水産祭



15 畜産共進会（肉用牛の部）

平成30年 農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事



16 畜産共進会（肉用牛の部）



17 畜産共進会（乳用牛の部）



18 全国農林水産祭



19 千房・BECOコラボレーション



20 千房・BECOコラボレーション

2018年9月4日「おおいた和牛」発表会



- ・大分の畜産2018
- ・平成31年3月発行